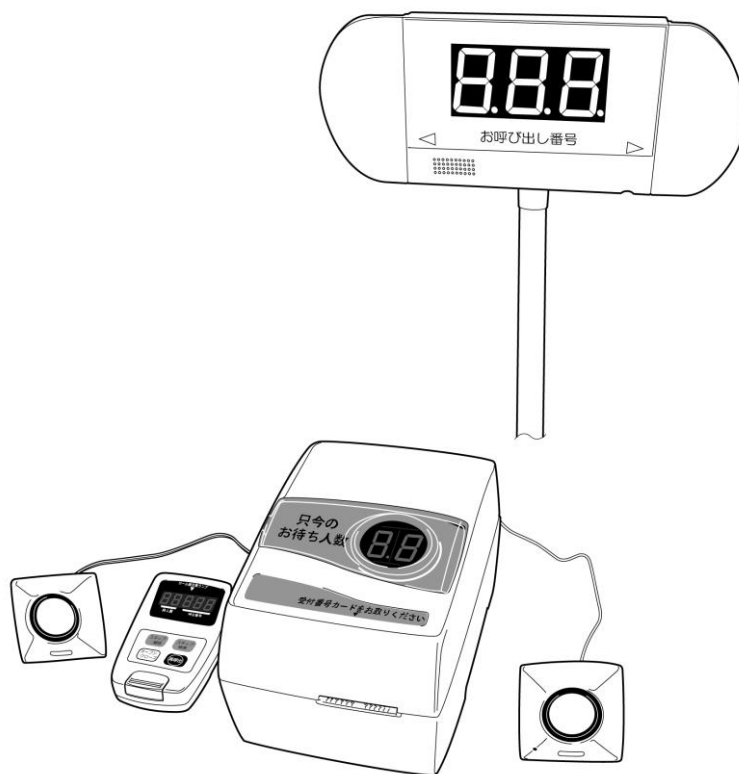


窓口受付システム

EYE-QUE EX

取扱説明書



取扱上のご注意

このたびは「EYE-QUE EX（窓口受付システム）」をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。
本装置を安全かつ効果的にお使い頂くために、ご使用になる前に本書をお読みください。

ご使用前の安全事項

- 製品は、取扱説明書の仕様に記載された環境下でご使用ください。仕様環境以外でご使用になると、火災や感電の原因になります。
- 製品を改造したり、部品を変更して製品に取り付けしないでください。また、取扱説明書に開閉指示のない箇所、およびネジなどで固定されているカバー、部品などを取り外さないでください。火災、感電、けがの原因になります。
- 製品から発煙したり、異常な臭い、音がするときは直ちに使用を中止して、電源スイッチを切った後、電源プラグをコンセントから抜いて最寄の販売店にご連絡ください。そのまま放置すると火災の原因になります。
- 製品の上に水の入った花瓶、コップなどを置かないでください。水がこぼれて製品内部に入ると絶縁が悪くなり、火災や感電の原因になります。
- 製品の内部や隙間にクリップ、ステープラー針などの金属片を落とさないでください。製品内部の電気回路に接触すると火災の原因になります。
- 製品の修理は最寄の販売店にご連絡ください。修理に不備があると火災、感電、けがの原因になります。
- 製品を使用するときは、取扱説明書の仕様に定められた電源に接続してください。仕様以外の電源から取ると火災、感電、けがの原因になります。
- 延長コードの使用やタコ足配線はしないでください。必ず、専用のコンセントを使用してください。火災の原因になります。
- 電源プラグが壊れていたり、電源コードが破れているときは、使用を中止し、最寄の販売店に連絡して交換してください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードに重いものをのせたり、熱源の近くを通したり、曲げたり、ねじれたままコンセントに差し込まないでください。電源コードに傷がついて、火災や感電の恐れがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないでください。電源コード、電源プラグ、およびコンセントが傷ついて、火災や感電の原因になります。
- 製品を清掃するときは必ず、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電する恐れがあります。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。ほこりがたまって発熱、発火の原因になります。
- 製品の周辺や内部に可燃物を置かないでください。製品からの発熱や、電源からの引火により、爆発や火災の原因になります。
- 製品が災害などで水没したときは、使用しないで、最寄の販売店に修理、点検を依頼してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 設置、ご使用の際は、扉、カバーの開閉や操作が十分可能な空間をお取りください。操作中に製品の一部があたると、けがをする恐れがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。


長くご使用いただくために

長くご使用いただくために、次のような場所への設置は避けてください。また、次の事項は製品の老朽化を早め、故障や誤動作の原因になります。

- 直接日光のあたる場所への設置は避けてください。
- ストーブやヒーター等への近く、製品の一部の温度が上昇するところや、クーラー、暖房器具、換気口から直接、風があたる場所は避けてください。
- ほこりや振動の多い場所は避けてください。
- 設置場所が冷え切っているときは、急に暖房すると水分が装置内部に付着します。
- 次に定める範囲の温度、湿度の環境下でご使用ください。
温度：5℃～40℃、湿度：20%～80%RH（ただし、結露なきこと）
- 製品の上に重いものをのせたり、強い衝撃を与えないでください。
- 製品の扉、カバー、内部各部を開閉するときは、無理な力を加えないでください。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて使用時と同様の環境下に保管してください。

使用時の注意

この装置をお使いいただく時には、次の点にご注意ください。

	注 意
<ul style="list-style-type: none">◎ カード取り出し口に手を触れないでください。 カードで指を切らないようご注意ください。◎ 上カバーやプリンターヘッド部を開閉する時、手や指を挟まないようご注意ください。◎ 装置を分解したりしないでください。◎ 点検、清掃する時には、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。	

ロール紙の取扱いについて

本装置は、感熱紙を使用しています。感熱紙の取扱いについてご注意ください。

- 蛍光ペンや油性ペンなどで記入すると色調が変化することがあります。
- 糊付けの際は糊の種類にご注意ください。ボンド、スティック糊等は発色の原因になります。
- ジアソコピー紙に感熱紙を密着させると、退色することがあります。
- 軟質塩化ビニールや消しゴムとの接触や粘着テープ糊付等で消色することがあります。
- 紙面を強く擦ると摩擦熱で発色することがあります。
- 保管時は、暗い冷所にビニールから出さずに保管してください。
- 感熱紙の特性上、長期保管する際は普通紙などにコピーして保管してください。

目次

概要.....	1
特徴.....	1
各部のなまえとはたらき.....	2
発行機（JC-1：本体）.....	2
発行機（JC-1：標準スピーカー）.....	3
操作モニタ（JM-1）.....	4
表示パネル（JP-1）.....	4
PoE ハブ（JH-1：オプション）.....	5
設置と配線.....	6
パネルスタンド取付け手順.....	9
ご使用前の準備.....	10
端末識別番号設定.....	10
日付・時刻を合わせる.....	12
標準設定内容.....	13
システム設定.....	13
番号カード設定.....	13
音声設定.....	14
基本操作.....	15
電源を入れる.....	15
電源を切る.....	15
番号カードの発券.....	15
音量の調整.....	16
窓口のオープン/クローズ.....	16
受付番号の呼出/再呼出.....	17
受付番号のスキップ・解除/スキップ検索.....	18
表示パネルの使い方.....	18
集計のとりかた.....	19
集計データの種類.....	19
集計データの印字手順.....	20
集計データの保存手順.....	22
当日集計データクリア.....	23
全集計データクリア.....	23
日付更新時刻設定.....	24
運用和暦の開始西暦の設定.....	24
システム設定データ保存.....	25
システム設定データ更新.....	25
番号カード設定データ更新.....	26
音声設定データ更新.....	26
プログラム更新.....	27
全集計データ保存.....	32
全集計データ更新.....	34
ロール紙のセット方法.....	37
紙詰まりの対処.....	38

日常のお手入れ.....	38
状態表示一覧.....	39
仕様.....	41
発行機（JC-1）.....	41
操作モニタ（JM-1）.....	41
表示パネル（JP-1）.....	41
PoE ハブ（JH-1：オプション）.....	41
共通仕様.....	41
付属品一覧.....	42
発行機（JC-1）.....	42
表示パネル（JP-1）.....	42
PoE ハブ（JH-1：オプション）.....	42
消耗品一覧.....	42

概要

「EYE-QUE EX（窓口受付システム）」は、来客の受付の順番を番号カード順に呼出するための装置です。お客様が発行機から発券される番号カードを取って順番を待ち、操作モニタの呼出し操作によって、案内音声と共に表示パネルに受付番号を表示してお客様を呼出します。お客様は、自分の番号カードの番号が表示されたら、窓口で必要な用件を伝え、処理してもらいます。

「EYE-QUE EX（窓口受付システム）」は、下記の装置で構成されています。

- ・発行機（JC-1）
- ・表示パネル（JP-1）
- ・操作モニタ（JM-1）
- ・PoE ハブ（JH-1：オプション）



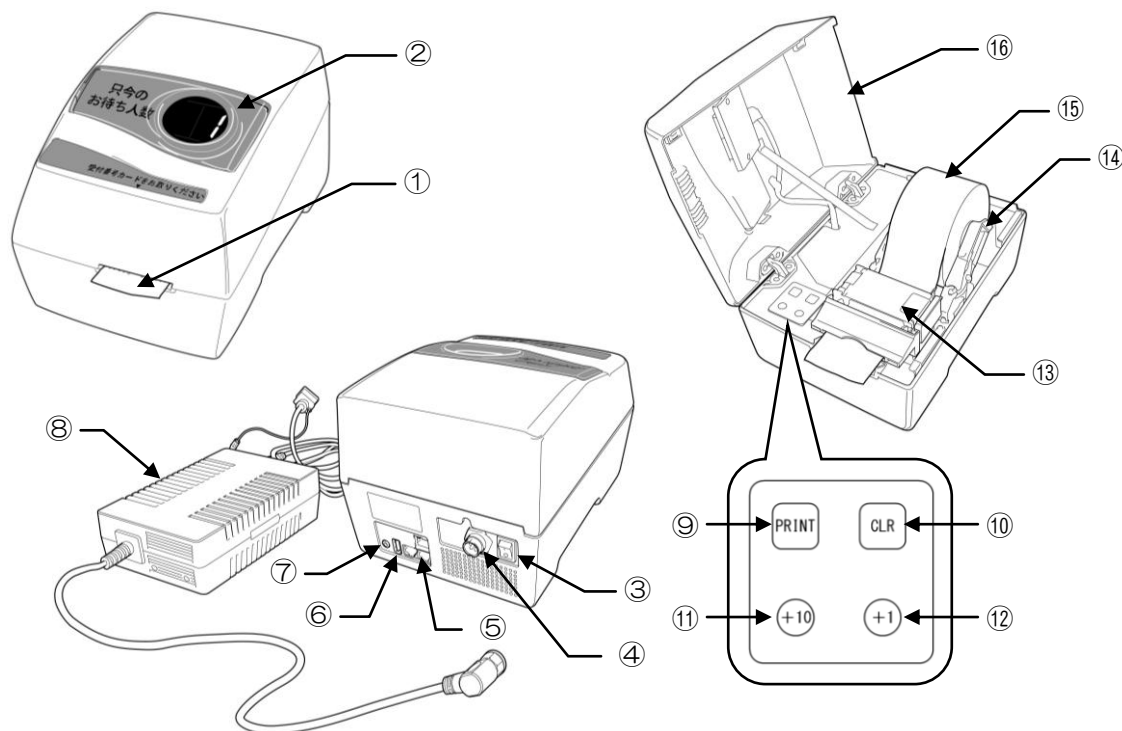
※ 図は設置イメージです。

特徴

1. 番号カード順に呼出し（スキップした場合を除く）をおこないますので、混雑時の受付もれや順番違いなどのトラブルがなくなり、スムーズに受付業務を遂行できます。
2. 日、週、月単位で来客状況の集計を出力できますので、繁忙日や混雑する時間帯がわかり、来客状況を見越した人員配置が可能になります。
3. 発行機には現在の待人数を表示していますので、お客様はカード発券前に、現在の混雑状況がわかります。また、表示パネルには現在呼ばれている番号を表示していますので、受付待ちのお客様は、進行具合がわかり、受付までの待ち時間の予想ができることから、お客様のイライラも解消されます。

各部のなまえとはたらき

発行機 (JC-1 : 本体)

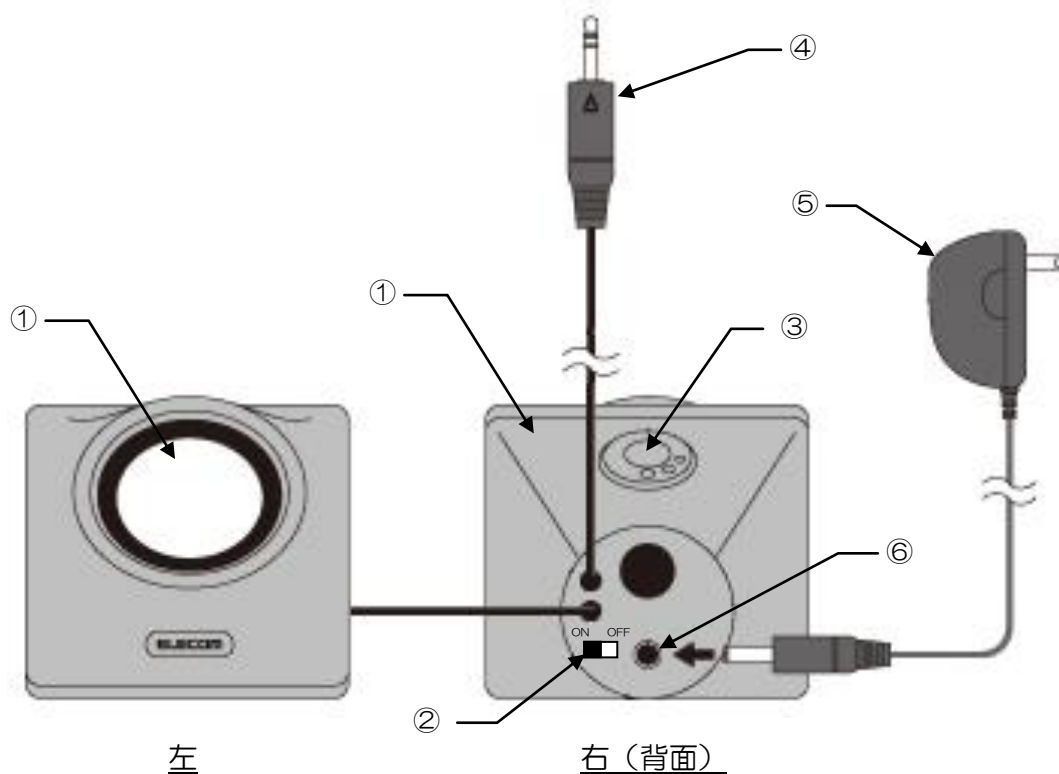


No.	名称	機能
①	カード取出口	番号カードが発券されます。
②	表示部 (LED 表示)	待人数、設定データ、エラー／アラームの記号などが表示されます。待人数が 100 人以上のときは、“99”と表示します。
③	電源スイッチ	電源の入り／切りをします。(注 1)
④	電源コネクタ	電源コードを接続します。
⑤	LAN 差込口	表示パネル・操作モニター、または PoE ハブ (オプション) を接続します。
⑥	USB 差込口	USB メモリを接続します。(注 2)
⑦	スピーカーケーブル差込口	標準スピーカーを接続します。
⑧	電源ユニット	専用の電源装置です。
⑨	「PRINT」キー	指定した設定を実行／確定するときに使用します。
⑩	「CLR」キー	エラー解除や、ロール紙をセットするとき、およびテスト印字をおこなうときに使用します。また、設定モードの解除、設定データの消去をするときに使用します。
⑪	「+10」キー	設定モードの選択時、およびデータ設定時に数字データの 10 の位を入力します。
⑫	「+1」キー	設定モードの選択時、およびデータ設定時に数字データの 1 の位を入力します。
⑬	プリンタユニット	発券番号や集計データを印字し、ロール紙をカットします。
⑭	ロール紙ホルダ	ロール紙をセットします。
⑮	ロール紙	発券番号や集計データを印字する用紙です。
⑯	上カバー	ロール紙の交換や集計データの印字時に開けます。

注 1) 電源を切る際は、基本操作の『電源を切る』の操作をおこなった後、電源スイッチを“O”側に倒して電源を切ります。

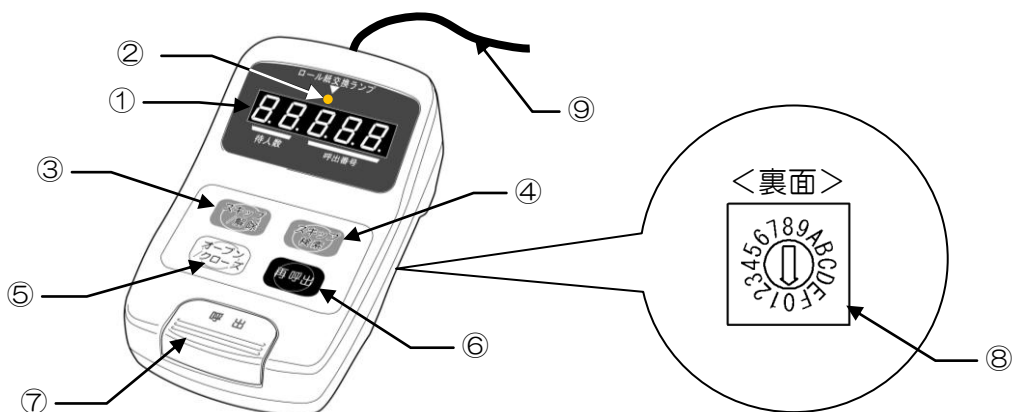
注 2) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

発行機 (JC-1 : 標準スピーカー)



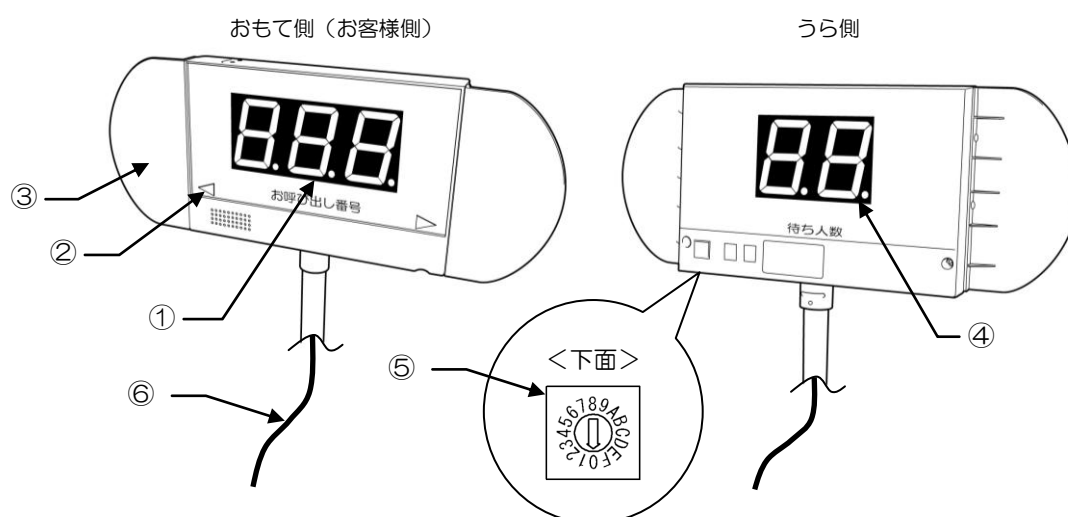
No.	名 称	機 能
①	スピーカー-L, R	呼出の音声を出力します。
②	電源スイッチ	電源の ON/OFF をします。
③	ボリューム	呼出の音量を調整します。 (左まわし-音量小、右まわし-音量大)
④	スピーカーケーブル	発行機本体のスピーカーケーブル差込口に接続します。
⑤	AC アダプタ	専用の電源装置です。
⑥	電源ジャック	⑤の AC アダプタを接続します。

操作モニタ (JM-1)



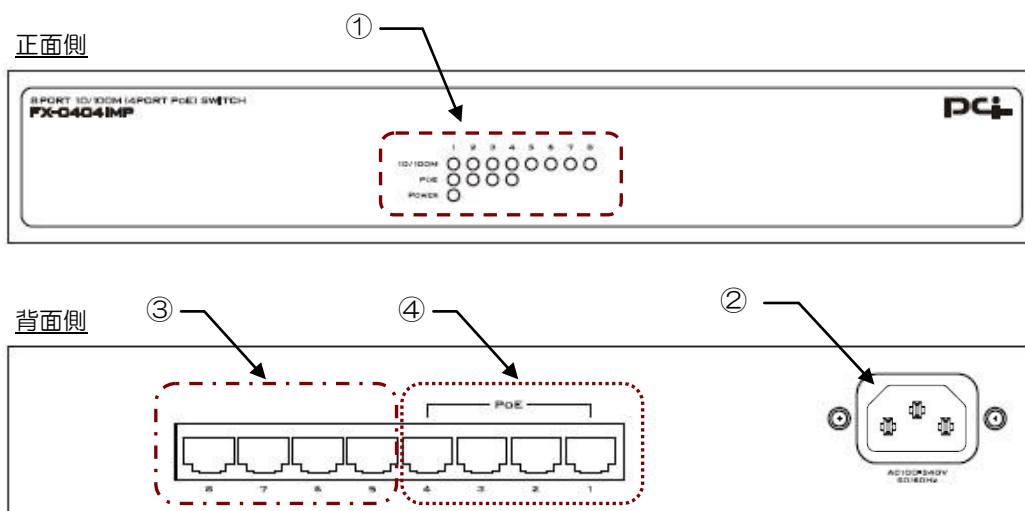
No.	名称	機能
①	表示部 (LED 表示)	左側 2 桁部は、待人数の表示 (100 人以上のときは“99”を表示)、右側 3 桁部は呼出番号を表示します。
②	ロール紙交換ランプ(LED 表示)	ロール紙の交換時期を点灯してお知らせします。
③	「スキップ/解除」キー	スキップまたはスキップ状態の解除をおこないます。
④	「スキップ検索」キー	スキップした受付番号の検索をおこないます。
⑤	「オープン/クローズ」キー	窓口のオープンまたはクローズをおこないます。
⑥	「再呼出」キー	呼出したお客様が来ない場合に再度呼出します。
⑦	「呼出」キー	受付番号を順番に呼出します。
⑧	アドレススイッチ	操作モニタ識別番号を設定します。
⑨	LANケーブル	発行機と通信をおこないます。(長さ 5m、取外し不可)

表示パネル (JP-1)



No.	名称	機能
①	表示部 (LED 表示)	呼出番号 (000~999) を表示します。
②	窓口指示表示部 (左右: LED 表示)	呼出している窓口の方向を点滅で示します。
③	窓口番号表示板 (左右)	窓口番号を示すシールなどを貼り付けます。
④	表示部 (LED 表示)	待人数 (00~99) を表示します。
⑤	アドレススイッチ	表示パネル識別番号を設定します。
⑥	LANケーブル	発行機と通信をおこないます。(長さ 5m、取外し不可)

PoE ハブ (JH-1 : オプション)



No.	名称	機能
①	LED 表示部	ハブの状態を表示します。
②	電源コネクタ	電源コードを接続します。
③	LAN ポート	発行機-ハブ間、ハブ-ハブ間のLANケーブルを接続します。
④	LAN ポート (PoE 給電ポート)	表示パネル、操作モニタのLANケーブルを接続します。

LED 表示説明

LED の名称	点灯状態	状態
POWER	点灯 (緑)	電源が ON の状態です。
	消灯	電源が OFF の状態です。
PoE	点灯 (緑)	PoE 対応機器が接続されています。
	消灯	PoE 対応機器が接続されていません。
10/100M	点灯 (緑)	ポートがリンクしている状態です。
	点滅 (緑)	ポートがデータを送受信している状態です。
	消灯	ポートがリンクしていない状態です。

設置と配線

お使いになる場所に応じ、以下の事項に注意して、各装置を設置します。

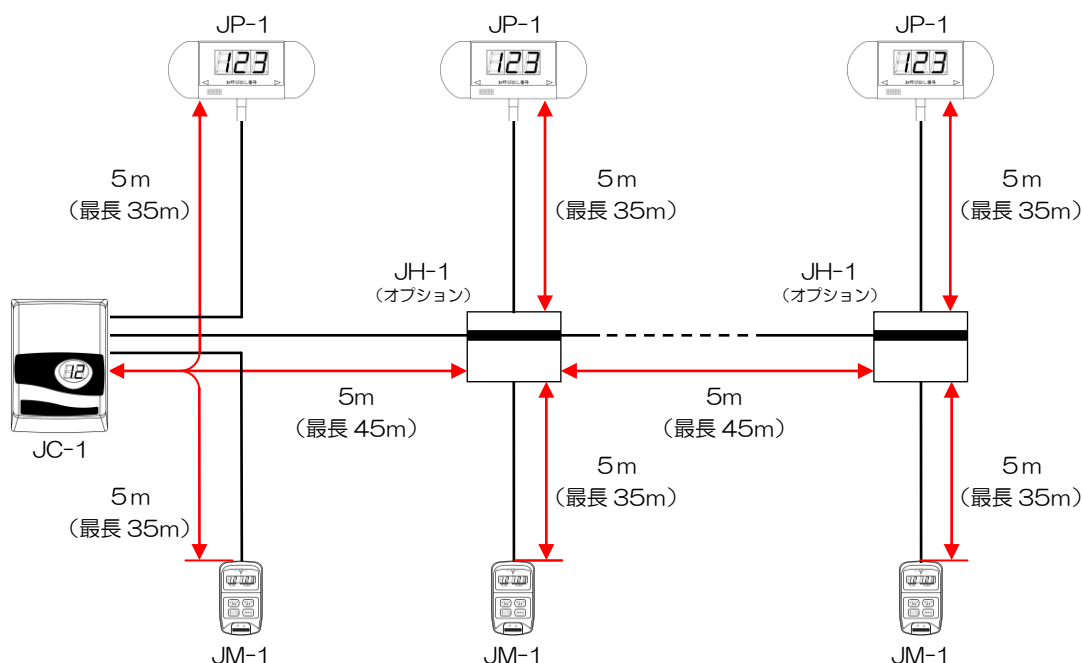
1. 発行機を設置する際は、平らな安定する台状の場所に設置してください。
発行機は、カバーの開閉操作やケーブルが接続されますので、設置空間は、十分に設けてください。
2. 発行機の電源は、専用の電源ユニットを使用します。電源ユニットの電源コードの長さに合わせて設置場所を決定してください。また、市販の延長コードを使用して電源ユニットと接続する場合は、十分な電流容量の延長コードをご使用ください。
3. 表示パネル、および操作モニタは、LAN ケーブルの長さ合った距離に配置し、LAN ケーブルに無理な力が加わらないように配線してください。

発行機と接続する各端末（表示パネル、操作モニタ）の LAN ケーブルの長さは 5m です。

※ 発行機、または PoE ハブから各端末間の LAN ケーブル長は最長 35m まで、発行機、または PoE ハブから PoE ハブ間の LAN ケーブル長は最長 45m まで延長可能です。

LAN ケーブルを延長する場合は、市販されている LAN ケーブル、および LAN ケーブル延長コネクタをご使用ください。

- ・推奨品：UTP LAN ケーブル：ストレート エンハンスド・カテゴリ 5（CAT5e）以上
LAN ケーブル延長コネクタ：エンハンスド・カテゴリ 5（CAT5e）以上



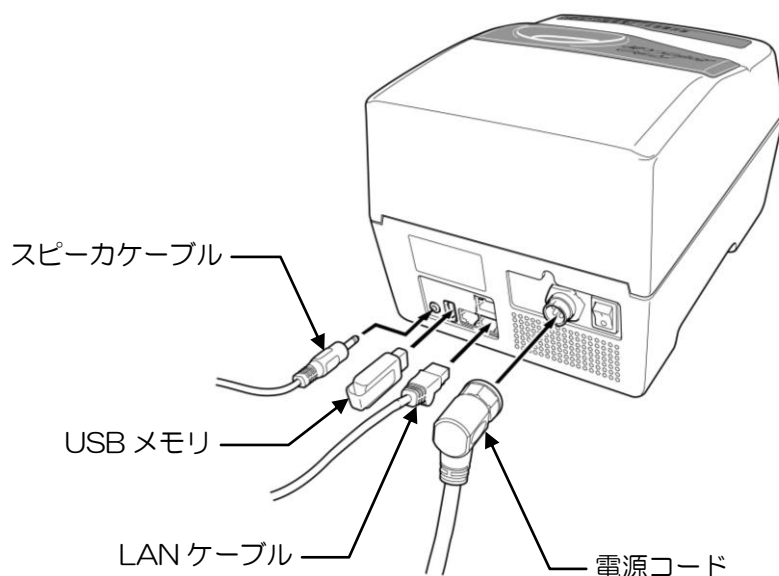
種別（型式）	最大接続台数	備考
発行機（JC-1）	1台	
表示パネル（JP-1）	3台 (16台 ^{※1})	発行機1台に対し、表示パネル+操作モニタの組合せは自由で、3台まで接続可能です。尚、PoE ハブを使用することにより16台 ^{※1} まで接続可能となります。
操作モニタ（JM-1）		
PoE ハブ（JH-1）	4台	オプション (表示パネル、操作モニタを合計4台以上接続する場合に使用します。)

※1) 操作モニタ最大15台、表示パネル最大8台を超えない範囲の組合せで合計16台まで接続可能となります。

例) 操作モニタを最大の15台とした場合は、接続できる表示パネルは1台となります。

ケーブルの接続

表示パネル・操作モニタの LAN ケーブル、スピーカケーブル、および電源コードを発行機に接続します。



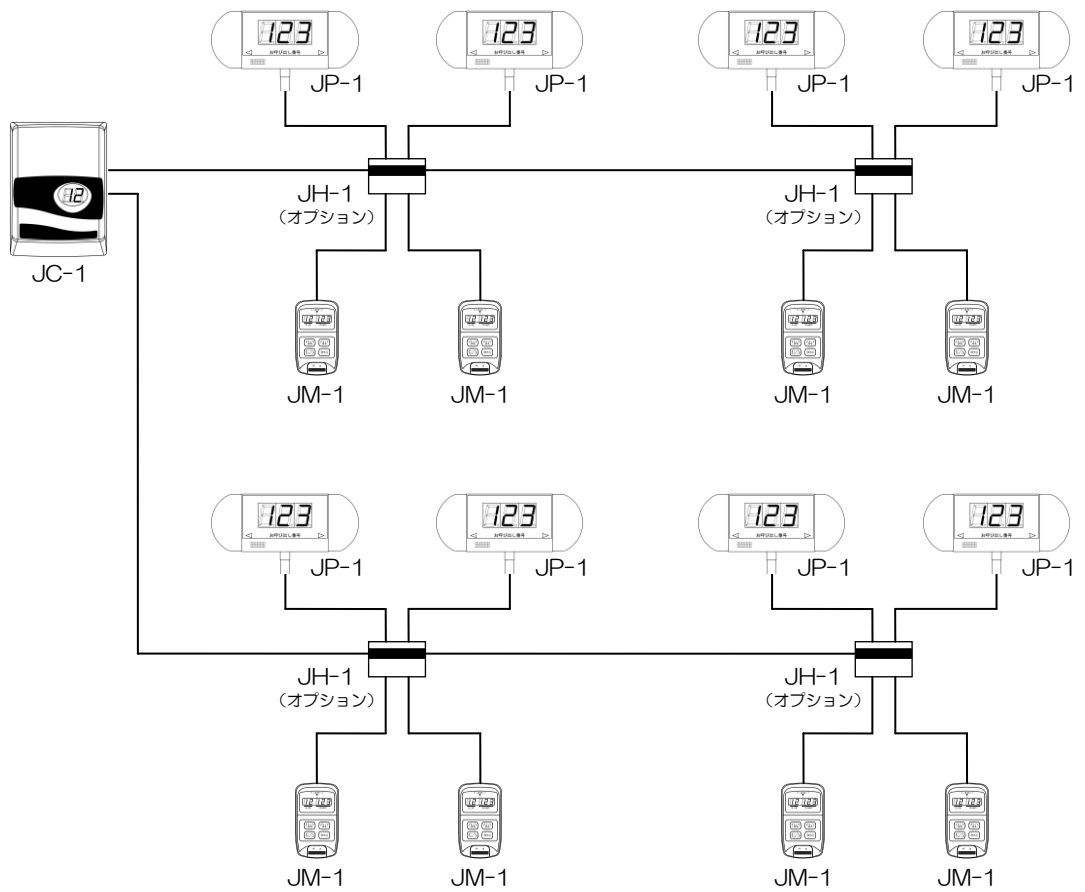
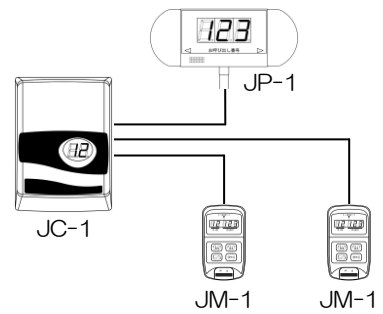
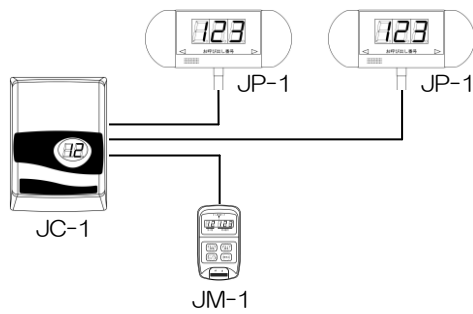
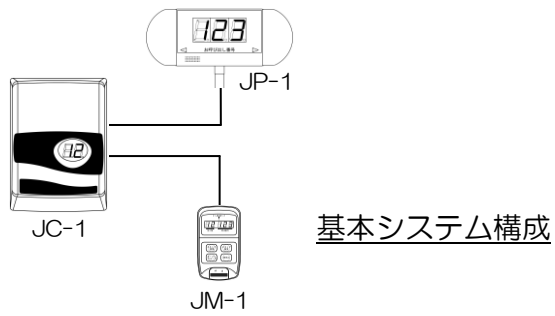
※ LAN ケーブルの差込みは順不同です。

※ USB メモリは、常時接続の必要はありません。

設定の更新や集計データの保存時などに接続します。尚、USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

⚠ 注意	<ul style="list-style-type: none">・電源コード、スピーカケーブル、および LAN ケーブルの接続は、装置の電源を切ってからおこなってください。・LAN ケーブルは“カチッ”と音がするまで差し込んでください。・設置後、配線処理をしてください。ケーブルに引っかかったの転倒や、装置が落下する危険があります。
-------------	--

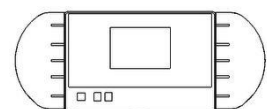
接続イメージ



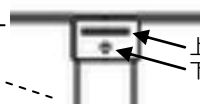
パネルスタンド取付け手順

ポールクランプ、および表示パネルの取付けには、プラスドライバーを使用します。

1. 表示パネル（JP-1）からのLAN ケーブルを取付ポールの側面にネジ穴ある方から取付ポールの中に通します。
2. 取付ポールを表示パネルの取付カラーに奥に突き当たるまで差し込み、ネジ小（1ヶ）で取付ポールと表示パネルを結合します。
（取付ポールの一番小さなネジ穴を使用します。）

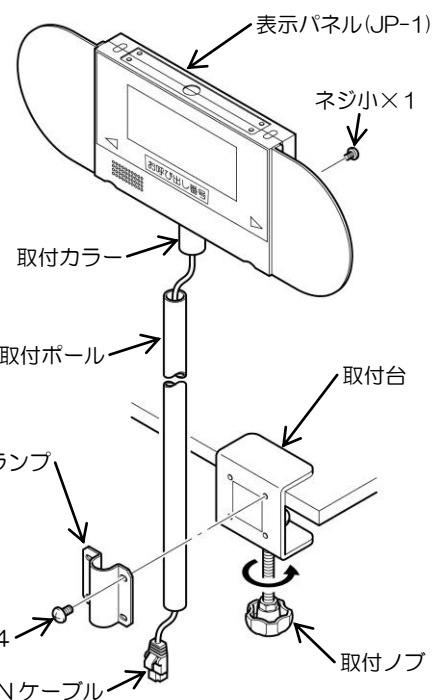


表示パネル
背面側



上側：長穴(取付用)
下側：ネジ穴
(使用しません)

スタンドに対して表示パネルの向きを左右に振りたい場合、長穴の中央にてネジ止されていたとすると、そこから左右に約45度ずつ表示パネルの向きを振ることができます。



3. 取付ポールにポールクランプをはめ込み、パネルの方向と高さを決めて、取付台にネジ大（4ヶ）で取付けます。
4. 表示パネルを設置するカウンター等に、取付台を取付ノブを回してしっかりと固定します。



注意

取付台が設置するカウンター等に浅く取付けられていたり、ネジの締め付けがゆるいと、表示パネルが転倒するおそれがあります。

ご使用前の準備

設置完了後、装置をご使用になる前に、各種設定をおこないます。

設定には、発行機、および各端末を操作しておこなうものと、発行機に付属の USB メモリをお手持ちのパソコンに接続して設定アプリケーションソフトを起動しておこなうものがあります。（設定アプリケーションソフトで設定した内容は、後述の USB メモリからの更新の手順にて発行機に読み込ませる必要があります。）

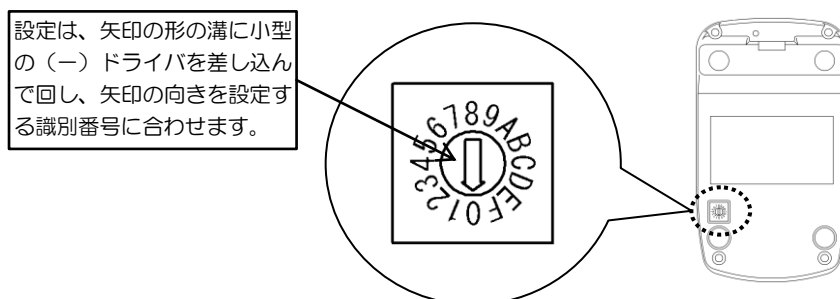
端末識別番号設定

表示パネル、および操作モニタの端末識別番号の設定を行います。尚、基本システム構成（表示パネル1台、操作モニタ1台）でご使用になる場合は、必要ありません。

設定は、下図に示すアドレススイッチで行います。設定の際には、小型の（－）ドライバを使用してください。

操作モニタ識別番号設定

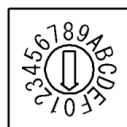
操作モニタ（JM-1）の識別番号を設定します。



- 1) 発行機の電源スイッチが切れていることを確認、または切ります。
- 2) 上図に示す、操作モニタ裏側にあるアドレススイッチにて各操作モニタの識別番号を設定します。このとき、識別番号は小さい番号“0”（注2）から順に割り当ててください。

注1) 操作モニタ同士で識別番号が重複しないように注意してください。

注2) 識別番号の設定範囲は、“10”～“1E”で、“1F”は使用できません。尚、識別番号は2桁ですが、便宜上1位の桁で設定をおこないます。



識別番号“10”は“0”に
合わせます



識別番号“1E”は“E”に
合わせます

注3) 窓口番号は、操作モニタの識別番号の小さい番号から順に自動的に割り当てられています。

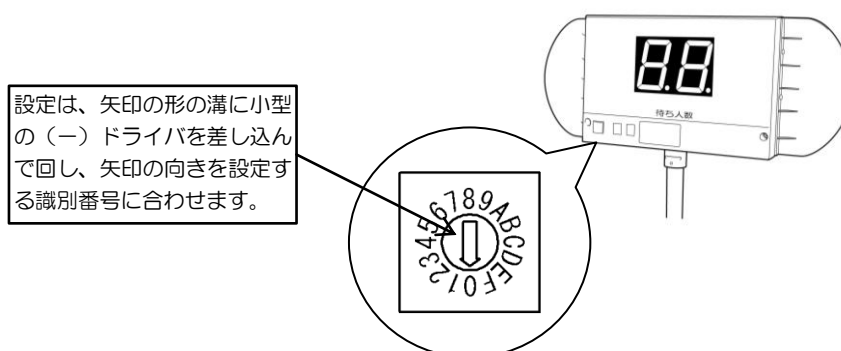
識別番号“0” → 窓口番号“1”
識別番号“1” → 窓口番号“2”
……
識別番号“E” → 窓口番号“15”

注4) 識別番号は、設定アプリのシステム設定による操作モニタと表示パネルの台数設定、および関連付けの設定に関係します。

注5) アドレススイッチは、中央部の矢印が設定する識別番号と一致した位置に設定してください。（“カチッ”と止まる位置が正しい位置になります。）

表示パネル識別番号設定

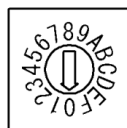
表示パネル（JP-1）の識別番号を設定します。



- 1) 発行機の電源スイッチが切れていることを確認、または切ります。
- 2) 上図に示す、表示パネル下側にあるアドレススイッチにて各表示パネルの識別番号を設定します。このとき、識別番号は小さい番号“0”（注2）から順に割り当ててください。

注1) 表示パネル同士で識別番号が重複しないように注意してください。

注2) 識別番号の設定範囲は、“30”～“37”で、“38”～“3F”は使用できません。尚、識別番号は2桁ですが、便宜上1位の桁で設定をおこないます。



識別番号“30”は“0”に
合わせます

- 注3) 識別番号は、システム設定による操作モニタと表示パネルの台数設定、および関連付けの設定に関係します。
- 注4) アドレススイッチは、中央部の矢印が設定する識別番号と一致した位置に設定してください。（“カチッ”と止まる位置が正しい位置になります。）

日付・時刻を合わせる

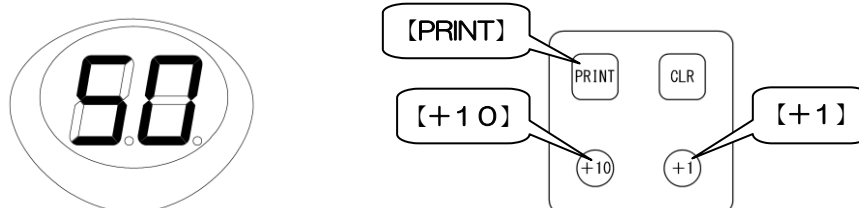
システムの日付と、時刻の設定をおこないます。

設定範囲 : 1989年1月1日0時0分00秒～2037年12月31日23時59分59秒

設定可能条件：カードが1枚も発券されていないこと（抜き取られていないこと）

【注意】発行機をご利用後、途中で発行機の日付を変更した場合、変更後の日付の前日集計印刷は印刷されません。（全てのデータは“0”で印刷されます。）

- ① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“50”を点滅表示させます。
（設定モード“50”に設定されます。）



- ② [PRINT]キーを押します。
※ 設定不可能なときは“ピピピ”とブザーが鳴り、日付・時刻を合わせることはできません。
（番号カードを1枚でも発券した場合、後述の『当日データクリア』の実行が必要です。）

- ③ 年月日時分秒の順で設定をおこないます。

※ 設定した値が不適当な場合は“ピピピ”とブザーが鳴り、日付・時刻は設定できません。

- 1) 年の設定 : LED表示部に西暦年号の下2桁が点滅表示するので、[+1][+10]キーで年を合わせて[PRINT]キーを押します。

入力例 : 2010年 → [10]

2037年 → [37]

- 2) 月の設定 : [+1][+10]キーで月を合わせて[PRINT]キーを押します。

月の設定範囲 : 01～12

- 3) 日の設定 : [+1][+10]キーで日を合わせて[PRINT]キーを押します。

日の設定範囲 : 設定した月に存在する日（閏年も含む）

- 4) 時の設定 : [+1][+10]キーで時を合わせて[PRINT]キーを押します。

時の設定範囲 : 00～23

- 5) 分の設定 : [+1][+10]キーで分を合わせて[PRINT]キーを押します。

分の設定範囲 : 00～59

- 6) 秒の設定 : [+1][+10]キーで秒を合わせて[PRINT]キーを押します。

秒の設定範囲 : 00～59

- ④ 日付・時刻の設定が終了すると“A1”（注1）を表示します。既に発券されているカード
取出口のカードを抜くと、設定した日付のカードが印字され、待人数を表示して通常の動作
に戻ります。

（注1）上記②の手順以降 ③の日付・時刻の設定を終了するまでの間に、既に発券されて
いるカード取出口のカードを抜いた場合、④に記載の“A1”は表示されずに設定
した日付のカードが印字され、待人数を表示して通常の動作に戻ります。

※ 番号カードは事前印字されていますので、上記作業に於いて既に発券されている
カード取出口のカードは、日付設定前の内容のため、破棄してください。

**【注意】和暦で番号カードを発券する場合は、「運用和暦の開始西暦の設定」（24ページ）
の設定が必要になります。**

標準設定内容

発行機には、システム設定・番号カード設定・音声設定について、それぞれ標準設定として下表の通りの設定が登録されています。

そのままの設定でのご使用も可能ですが、お客様のご使用環境に合わせて設定アプリにて設定を変更することも可能です。

システム設定

No	設定項目	標準設定内容
1	接続端末台数設定	操作モニタ数=2台 表示パネル数=2台
2	呼出時点減設定	点減回数=4回
3	番号範囲設定	開始番号~終了番号=1~999
4	操作モニタと表示パネルの関連付け	操作モニタ識別番号=10、11 表示パネル識別番号=30、31
5	来店アラート	ブザーを鳴らす(チェック有)
6	端末の関連づけ状態	操作モニタで操作した内容が表示される 表示パネルが青線で結ばれています 操作モニタ識別番号⇄表示パネル識別番号=11 表示パネルの窓口指示表示部の使用=無(左右)

番号カード設定

No	設定項目	標準設定内容
1	番号カード設定	カッター=1点残し無し
2	タイトル	内容=受付番号カード フォント・サイズ=MSゴシック・48
3	呼出番号	フォント=MSゴシック
4	日付印字	和暦/西暦=2010年10月10日(西暦) 年号=空欄(なし) フォント=MSゴシック
5	業種名入力	業種名=空欄 フォント・サイズ=MSゴシック・50
6	コメント入力	コメント内容=番号順にお取り扱い致しておりますので、恐れ入りますがお待ちするまでお待ちください。 フォント・サイズ=MSゴシック・36
7	会社・店舗名入力	会社・店舗名=空欄 フォント・サイズ=MSゴシック・36
8	バーコード設定	バーコード=無(チェック無)

受付番号カード

001

2011年 2月 1日

番号順にお取り扱い致しておりますので、恐れ入りますがお待ちするまでお待ちください。

印字見本(標準設定時)

音声設定

音声組合せ

音声組合せ番号	音声内容
音声 No.1	ピンポン ○○番の カードをお持ちのお客様 窓口まで お越してください
音声 No.2	ピンポン お待たせいたしました ○○番の カードをお持ちのお客様 窓口まで お越してください
音声 No.3	ピンポン 大変お待たせいたしました ○○番の カードをお持ちのお客様 窓口まで お越してください
音声 No.4	ピンポン ○○番の カードをお持ちのお客様 ○○番の 窓口まで お越してください
音声 No.5	ピンポン ○○番の カードをお持ちのかた ○○番の 窓口まで お越してください
音声 No.6	ピンポン 大変お待たせいたしました ○○番の カードをお持ちのかた ○○番の 窓口まで お越してください
音声 No.7~10	未設定

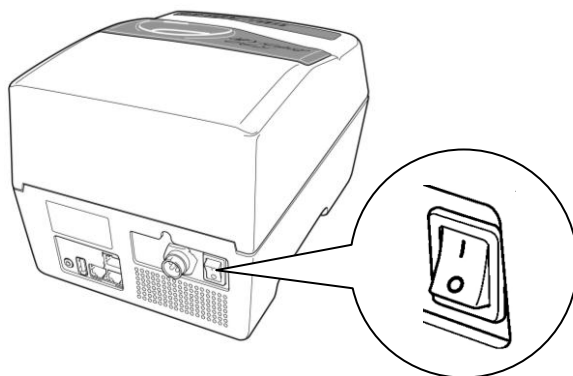
呼出時の音声

No	設定項目	標準設定内容	
1	待ち時間	5 分以内	音声No.1
		5 分~15 分	音声No.2
		15 分以上	音声No.3
2	再呼出	音声No.1	
3	スキップ呼出	音声No.2	

基本操作

電源を入れる

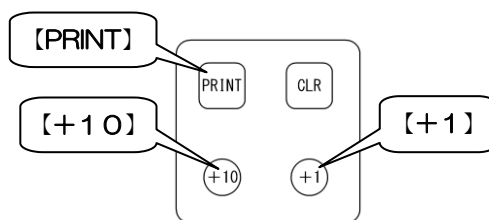
発行機後面の電源スイッチを“ | ”側に倒すと電源が入ります。初期化動作を行い、待ち人数を表示したら使用可能です。



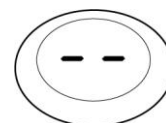
注) 電源を切った後、再度電源を入れる場合は、5秒以上の間隔をあけて電源を入れてください。

電源を切る

① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1] キー、または [+10] キーを1回押して表示部に“90”を点滅表示させます。



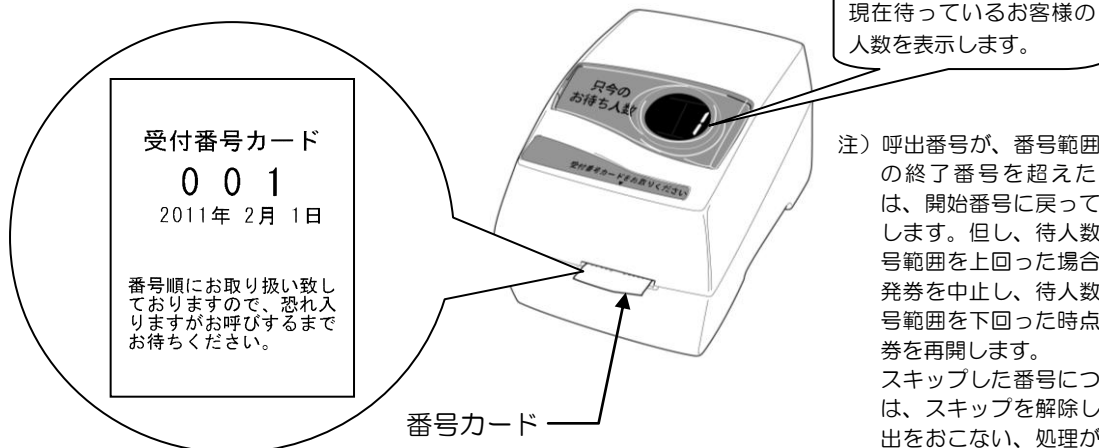
〈表示〉
バックアップ終了時



- ② [PRINT] キーを押すと、データのバックアップを開始します。
③ バックアップが終了し、表示部が“--”の表示になりましたら、発行機後面の電源スイッチを“0”側に倒し、電源を切ります。

番号カードの発券

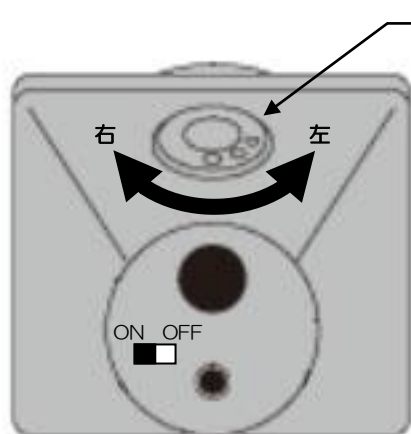
発行機のカード取出口にある番号カードを抜取ります。番号カードを抜取ると自動的に次の番号カードを発券します。(業種名や会社・店舗名等を印字する場合は、設定アプリによる番号カード設定と後述の『番号カード設定データ更新』が必要です。)



注) 呼出番号が、番号範囲設定の終了番号を超えた場合は、開始番号に戻って発券します。但し、待人数が番号範囲を上回った場合は、発券を中止し、待人数が番号範囲を下回った時点で発券を再開します。スキップした番号については、スキップを解除して呼出をおこない、処理が終了するまで欠番となります。

音量の調整

呼出しの音量を調整できます。調整は、スピーカーのボリュームを回します。



ボリューム

右まわし・・・音量が大きくなります

左まわし・・・音量が小さくなります

スピーカー背面

窓口のオープン/クローズ

操作モニタの「オープン/クローズ」キーを押して窓口をオープンまたはクローズします。オープン時の表示になれば呼出しが可能です。

【オープン/クローズ】キー

押すたびに、操作モニタの「オープン」と「クローズ」を繰り返します。接続された表示パネルも連動します。但し、複数の操作モニタで一つの表示パネルを使用している場合は、オープンしている操作モニタが一つでもあれば表示パネルはクローズにはなりません。



〈表示〉

クローズ時



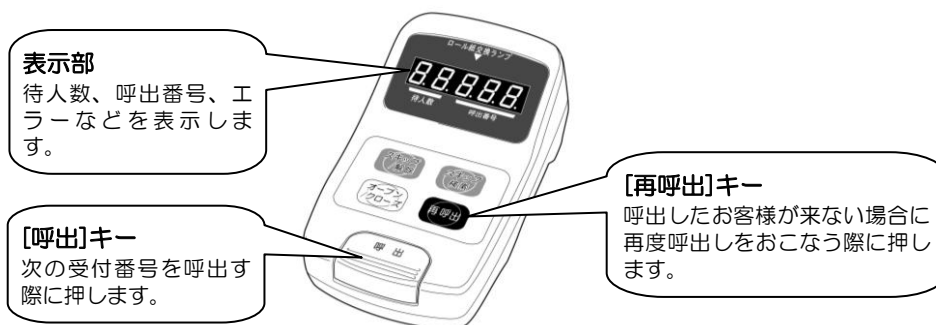
オープン時



受付番号の呼出／再呼出

表示部に待人数がある場合、「呼出」キーを押して呼出します。

呼出したお客様が窓口に来ないため再度呼出すとき、「再呼出」キーを押して呼出します。



【注】

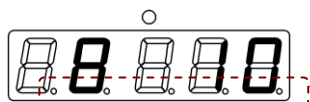
複数の操作モニタ、表示パネルをご使用の場合でも、同時に2つ以上の呼出し番号アナウンスはできません。

呼出し操作により呼出番号点滅中の操作モニタは、呼出番号が点灯に変わるまで次の番号呼出し操作は受け付けません。

また、複数の操作モニタをご使用の際、他の操作モニタが呼出し操作により呼出番号点滅中のときに呼出操作をおこなった場合は、呼出し操作は受け付けますが、呼出しは順番待ちとなります。

この順番待ちの間は、操作モニタのLED5桁のドット全てが点滅し続けます。

<表示>



他の操作モニタが呼出し操作により呼出番号点滅中のときに呼出操作をおこなった場合、呼出しの順番待ちの間、LED5桁のドット全てが点滅し続けます。

順番待ちの操作モニタの呼出しの順番がきたら、点滅していたLED5桁のドット全てが消灯し、呼出番号アナウンスが開始されます。

受付番号のスキップ・解除／スキップ検索

【呼出したお客様が来ないため、その番号をスキップして次のお客様を呼出す場合】



[スキップ/解除]キーを押します。

呼出したお客様が来ない場合に押すことにより、その番号をスキップして次のお客様を呼出すことができます。
※スキップ件数は最大 100 件です。100 件を超えた場合はスキップできません。

【スキップしたお客様が戻ってきた場合】



[スキップ検索]キーを押します。

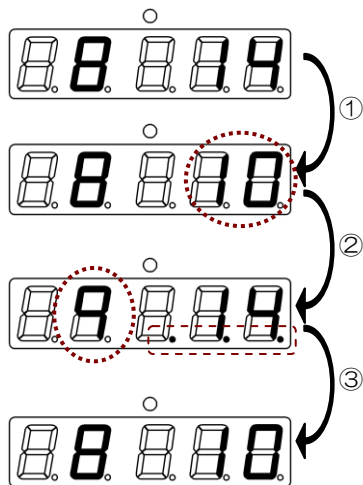
スキップ番号を検索する場合に押します。スキップ番号がある場合、押すごとに若い番号から順に表示します。

呼出す番号が表示されたら、
[スキップ/解除]キーを押します。

スキップした番号を表示中に「スキップ/解除」キーを押すことで、スキップが解除されます。

呼出しキーを押します。

例) 番号カード 14 番のお客様まで処理が終了して、待人数が 8 人とします。このとき、呼出時に来なかったため、スキップ処理された番号カード 10 番のお客様が来られたとします。



① [スキップ検索]キーを“10”が表示されるまで押します。

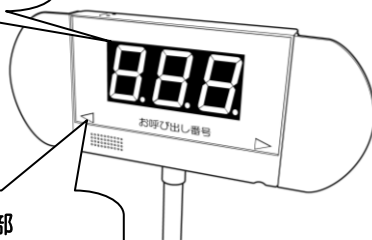
② “10”を表示したら、[スキップ/解除]キーを押します。
待人数が 1 人加算され、呼出番号が最後に処理した番号表示に戻ります。同時に、呼出番号 3 桁部にスキップ解除された番号があることを示すドットが点灯します。(ドットは、すべての操作モニタで点灯し、すべての操作モニタから呼出せます。)

③ [呼出]キーを押すと“10”番の呼出をおこないます。
スキップ解除した番号は、すべての操作モニタから呼出が可能ですので、タイミングによっては、スキップ解除した操作モニタと呼出をおこなっている操作モニタが異なる場合があります。

表示パネルの使い方

表示部
呼出番号やエラーを表示します。

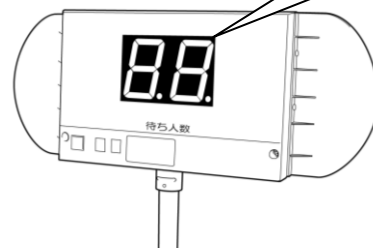
おもて側 (お客様側)



窓口指示表示部
呼び出している窓口の方向を示します。
(右側も同様)

うら側

表示部
待人数を表示します。



集計のとりかた

発行機は番号カードの印字・発券をするほかに、来客状況のデータを集計して印字したり、USB メモリに保存したりすることができます。

集計データの種類

集計データの種類を下表にまとめます。

詳細	コード番号	備 考
当日集計印字	00	
前日集計印字	01	
当日集計保存	02	today_totalYYYYMMDD.csv
前日集計保存	03	yesterday_totalYYYYMMDD.csv
日集計保存	04	oneday_totalYYYYMMDD.csv
当週集計印字	10	
前週集計印字	11	
当週集計保存	12	thisweek_totalYYYYMMDD.csv
前週集計保存	13	lastweek_totalYYYYMMDD.csv
当月集計印字	20	
前月集計印字	21	
当月集計保存	22	thismonth_totalYYYYMMDD.csv
前月集計保存	23	lastmonth_totalYYYYMMDD.csv

*1 ファイル名 YYYY=保存した年、MM=保存した月、DD=保存した日

- ・当日集計 …… 当日のデータを集計します。
- ・前日集計 …… 前日のデータを集計します。
- ・日集計 …… 指定日のデータを集計します。
- ・当週集計 …… 当週（当日を含め7日分）のデータを集計します。
- ・前週集計 …… 前週（当週の前の7日分）のデータを集計します。
- ・当月集計 …… 当月1日から当日までのデータを集計します。
- ・前月集計 …… 前月1ヶ月のデータを集計します。

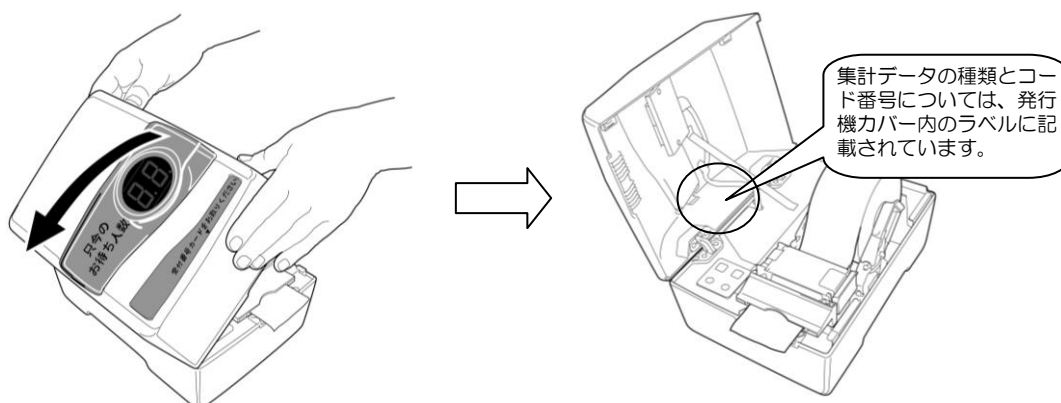
【注意】発行機をご利用後、途中で発行機の日付を変更した場合、変更後の日付の前日集計印字は印刷されません。（全てのデータは“0”で印刷されます。）

集計データの印字手順

集計データの印字は、次の手順でおこないます。

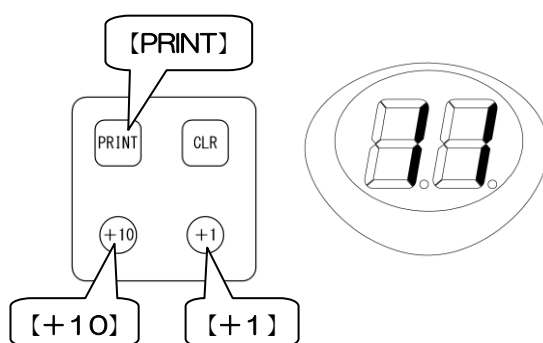
集計印字の手順は、以下②にて表示させる集計印字のコード番号が異なる以外は同じ手順です。

- ① 発行機の上カバーを開きます。



- ② 操作キーの【+1】と【+10】を押して、発行機表側の LED 表示部に印字したい集計印字のコード番号を表示させます。

(例) 以下は例として「前週集計印字」のコード番号“11”を表示しています。



- 【+1】、【+10】どちらかのキーを1回押すと、“90”と点滅表示します。
- 【+1】を押すたびに、LED表示部の1桁目が“0、1、2、・・・、9、0、・・・”と変化していきます。
- 【+10】を押すたびに、LED表示部の2桁目が“0、1、2、・・・、9、0、・・・”と変化していきます。

- ③ LED 表示部に印字したい集計データのコード番号を表示させたら、【PRINT】を押します。

集計データの印字が開始され、印字後カットされます。

※ カード取出口に番号カードが残っているときは、“A1 (用紙残り)”エラーが表示されます。番号カードを抜くと、集計データの印字を開始します。尚、このとき抜き取った番号カードは、集計印字後に再発行されます。

- ④ 集計データを印字した用紙を取り除くと、番号カードを発券して通常動作に戻ります。

印字例

<当日集計>

** 当日集計 **			
◆ 集計日 9月9日(月) 15時42分			

集計対象日 2010年 9月6日(月)			
A- 時間帯 B- 平均待ち時間 C- 平均処理時間 D- 時間帯来客人数 合計来客人数 0人			
A	B	C	D
00:00	0分	0分	0人
00:30	0分	0分	0人
01:00	0分	0分	0人
01:30	0分	0分	0人
02:00	0分	0分	0人
02:30	0分	0分	0人
03:00	0分	0分	0人
03:30	0分	0分	0人
04:00	0分	0分	0人
.....
18:00	0分	0分	0人
18:30	0分	0分	0人
19:00	0分	0分	0人
19:30	0分	0分	0人
20:00	0分	0分	0人
20:30	0分	0分	0人
21:00	0分	0分	0人
21:30	0分	0分	0人
22:00	0分	0分	0人
22:30	0分	0分	0人
23:00	0分	0分	0人
23:30	0分	0分	0人

集計の項目、日付等が表示されます。

集計結果が30分単位で表示されます。

<当月集計>

** 当月集計 **			
◆ 集計日 9月13日(月) 15時00分			

集計対象範囲 2010年9月1日-2010年9月13日			
A- 集計対象日 B- 平均待ち時間 C- 平均処理時間 D- 日來客人数 合計来客人数 0人			
A	B	C	D
09月01日	0分	0分	0人
09月02日	0分	0分	0人
09月03日	0分	0分	0人
09月04日	0分	0分	0人
09月05日	0分	0分	0人
09月06日	0分	0分	0人
09月07日	0分	0分	0人
09月08日	0分	0分	0人
09月09日	0分	0分	0人
09月10日	0分	0分	0人
09月11日	0分	0分	0人
09月12日	0分	0分	0人
09月13日	0分	0分	0人

集計結果が日別に表示されます。

※ 集計票の保管について

感熱紙の特性上、長期保管する際は普通紙などにコピーして保管してください。

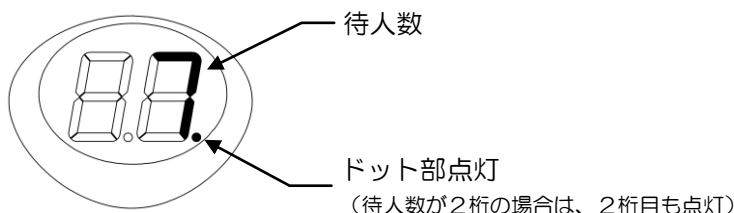
集計データの保存手順

集計データの保存は、次の手順でおこないます。

集計保存の手順は、以下③にて表示させる集計保存のコード番号が異なる以外は基本的に同じですが、日集計保存（コード番号：04）のみ一部手順が異なります。

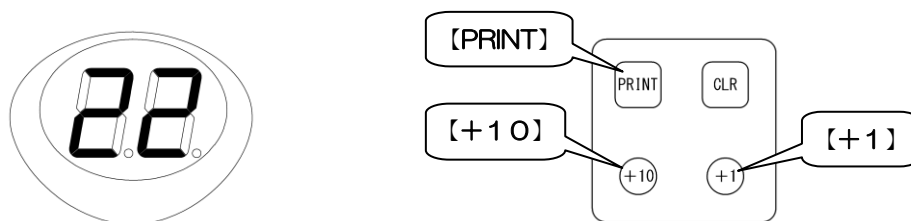
注）USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

- ① USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ② ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。



- ③ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10] キーで表示部に保存したい集計データのコード番号を表示させます。

(例) 以下は例として「当月集計保存」のコード番号“22”を表示しています。



【以降は、日集計保存のみ手順④～⑥へ、日集計保存以外は直接 手順⑥に進んで下さい】

- ④ 【PRINT】を押します。
- ⑤ [+1][+10] キーで、当日から何日前の集計データを保存するかの設定をおこないます。
最大99日前まで指定することが可能です。

(例) 当日が7月25日の場合

LED表示 00：7月25日（当日）の集計データ

LED表示 01：7月24日（前日）の集計データ

LED表示 25：6月30日 の集計データ

LED表示 55：5月31日 の集計データ

LED表示 86：4月30日 の集計データ

LED表示 99：4月17日 の集計データ

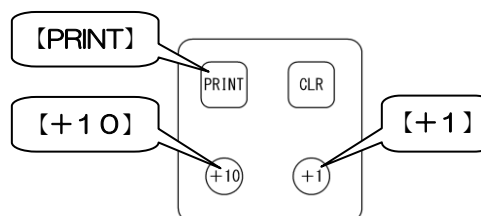
- ⑥ 【PRINT】を押します。集計データの保存が開始され、保存後待人数を表示し、通常動作に戻ります。

※ 通常動作に戻ったら USB メモリを外します。

当日集計データクリア

当日分の番号カードの発券データをクリアします。

- ① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“30”を点滅表示させます。
(設定モード“30”に設定されます。)

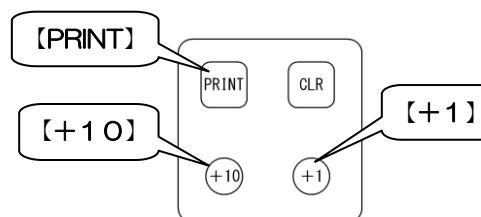


- ② [PRINT]キーを押すと、当日分の情報がクリアされます。
- ③ クリア後、表示部に“0”と表示され、開始番号に設定された最初の番号の番号カードが発券されます。
 - ※ カード取出口に番号カードが残っているときは、“A1 (用紙残り)”エラーが表示されます。
番号カードを抜くと、開始番号に設定された最初の番号の番号カードが発券されます。
 - ※ 表示パネル、操作モニタはクローズ状態になります。

全集計データクリア

全ての番号カードの発券データ（当日データ、前日データ、日別データ他）をクリアします。併せて日付更新時刻が“午前0時”（初期設定値）になります。

- ① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“31”を点滅表示させます。
(設定モード“31”に設定されます。)



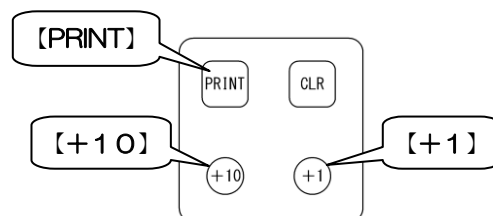
- ② [PRINT]キーを押すと、全ての情報がクリアされます。
- ③ クリア後、表示部に“0”と表示され、開始番号に設定された最初の番号の番号カードが発券されます。
 - ※ カード取出口に番号カードが残っているときは、“A1 (用紙残り)”エラーが表示されます。
番号カードを抜くと、開始番号に設定された最初の番号の番号カードが発券されます。
 - ※ 表示パネル、操作モニタはクローズ状態になります。

日付更新時刻設定

集計データの日付が更新される時刻の設定をおこないます。初期値は“午前0時”です。

設定可能条件：カードが1枚も発券されていないこと（抜き取られていないこと）

- ① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“60”を点滅表示させます。
（設定モード“60”に設定されます。）



- ② [PRINT]キーを押します。（設定不可能の場合はブザーが“ピピピ”と鳴ります。）
- ③ 表示部に数字が点滅表示されるので、[+1][+10]キーで日付を更新する時刻を表示させます。
設定範囲：00（0:00）～23（23:00）
※ 分の単位は設定できません。
- ④ [PRINT]キーを押して確定すると、設定が終了して待人数を表示し、通常動作に戻ります。

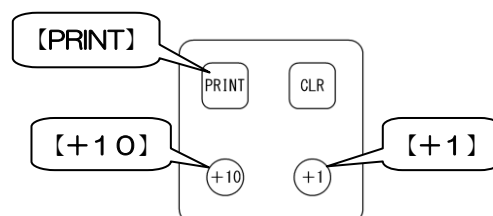
運用和暦の開始西暦の設定

元号が変わった場合に、和暦の“1年”が西暦の何年にあたるかを設定するためのものです。通常は設定する必要はありません。

“平成”でご使用になる場合は、平成1年は1989年ですので“89（1989年）”と設定してください。

設定可能条件：・カードが1枚も発券されていないこと（抜き取られていないこと）
・設定アプリの番号カード設定で、日付印字に和暦が選択されていること

- ① 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“70”を点滅表示させます。
（設定モード“70”に設定されます。）



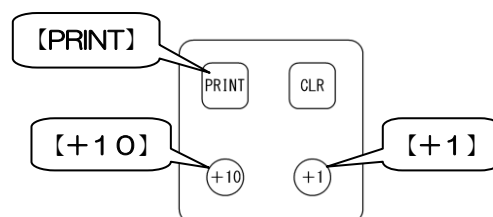
- ② [PRINT]キーを押します。（設定不可能の場合は“ピピピ”とブザーが鳴ります。）
- ③ [+1][+10]キーでLED表示部に西暦年号の下2桁を点滅表示させます。
設定範囲：89（1989年）～37（2037年）
西暦年号の下2桁：[00]～[37] → 2000年～2037年
[89]～[99] → 1989年～1999年
- ④ [PRINT]キーを押して確定すると、設定が終了して待人数を表示し、通常動作に戻ります。

システム設定データ保存

USB メモリにシステム設定データの保存をおこないます。

注) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

- ① USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ② ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。
- ③ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“80”を点滅表示させます。
(設定モード“80”に設定されます。)



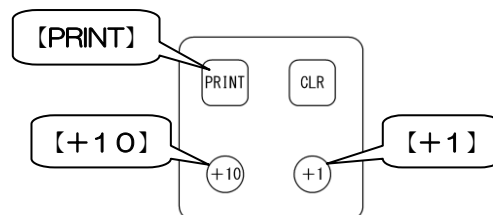
- ④ 【PRINT】を押します。システム設定データの保存が開始され、保存後待人数を表示し、通常動作に戻ります。
※ 通常動作に戻ったら USB メモリを外します。

システム設定データ更新

USB メモリ内のシステム設定データを読み込み、発行機のシステム設定を更新します。

注) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

- ① USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ② ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。
- ③ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“81”を点滅表示させます。
(設定モード“81”に設定されます。)



- ④ 【PRINT】を押します。システム設定データの更新が開始され、更新後 LED 表示部が“- -”の表示になります。

〈表示〉
システム設定データ更新後



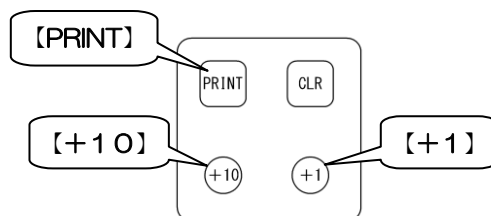
- ⑤ 発行機の電源スイッチを切ります。
※ 発行機の電源スイッチを切った後、USB メモリをはずします。
- ⑥ 5 秒以上待った後、発行機の電源スイッチを入れます。

番号カード設定データ更新

USB メモリ内の番号カード設定データを読み込み、発行機内の番号カード設定データを更新します。

注) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

- ① USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ② ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。
- ③ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“82”を点滅表示させます。
(設定モード“82”に設定されます。)



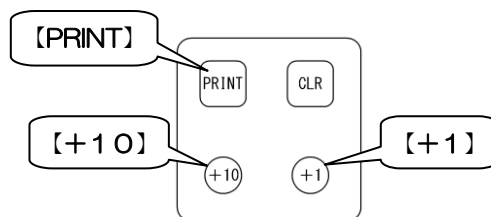
- ④ 【PRINT】を押します。番号カード設定データの更新が開始され、更新後待人数を表示し、通常動作に戻ります。
※ 通常動作に戻ったら USB メモリを外します。

音声設定データ更新

USB メモリ内の音声設定データを読み込み、発行機内の音声設定データを更新します。

注) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

- ① USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ② ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。
- ③ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“83”を点滅表示させます。
(設定モード“83”に設定されます。)



- ④ 【PRINT】を押します。音声設定データの更新が開始され、更新後 LED 表示部が“- -”の表示になります。

〈表示〉

音声設定データ更新後



- ⑤ 発行機の電源スイッチを切ります。
※ 発行機の電源スイッチを切った後、USB メモリをはずします。
- ⑥ 5秒以上待った後、発行機の電源スイッチを入れます。

プログラム更新

USB メモリ内のプログラムを読み、発行機内のプログラムを更新します。尚、本プログラム更新は、発行機のプログラムが更新された場合におこなうもので、通常はおこなわないでください。

注1) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

プログラム更新をする前に必ず以下の内容をご確認ください。

- ・プログラム更新をおこなう際は待人数は0、全ての窓口はクローズ状態でおこなってください。ただし、スキップしたものはそのまま構いません。
- ・日付変更時刻の設定を確認し、「全集計データ保存」と「全集計データ更新」の作業が日付変更時刻をまたいでおこなわない様にしてください。

正しい例 日付変更時刻設定が 24:00（設定値：00）の場合

作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月27日 23:40 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

間違い例 日付変更時刻設定が 24:00（設定値：00）の場合

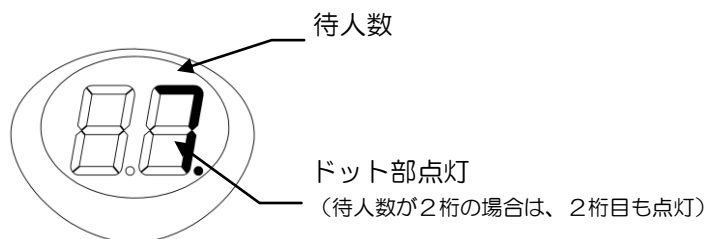
作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月28日 00:10 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

上記の“間違い例”の様に日付変更時刻設定の設定時刻をまたがって作業をおこなうと、10月27日の集計データが、10月28日の集計データとして本体に戻されてしまい、当日データが正常に更新されません。

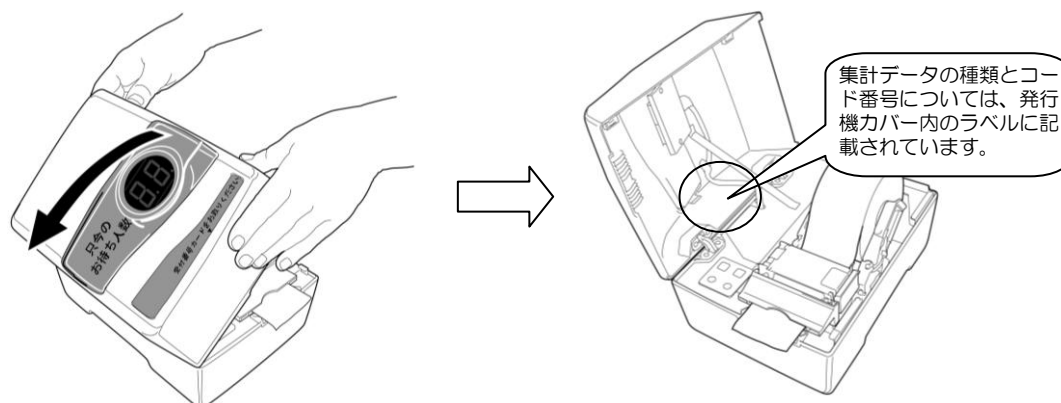
「全集計データ保存」したデータを「全集計データ更新」で本体に戻す際、日付変更時刻をまたいでおこなわないでください。

- ① 更新するプログラムの入った USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。
ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。

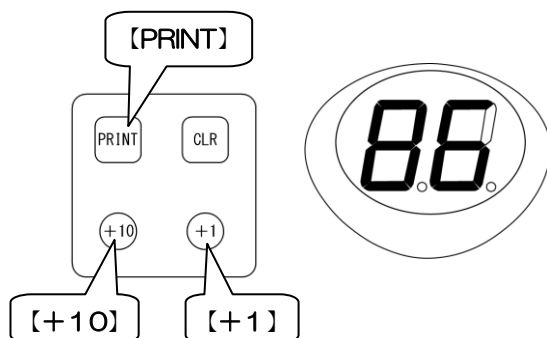


- ② 「全集計データ保存」をおこないます。

発行機の上カバーを開きます。



- ③ 操作キーの【+1】と【+10】を押して、発行機表側のLED表示部に「全集計データ保存」のコード番号“86”を点滅表示させます。
(設定モード“86”に設定されます。)



- 【+1】、【+10】どちらかのキーを1回押すと、“90”と点滅表示します。
- 【+1】を押すたびに、LED表示部の1桁目が“0、1、2、・・・、9、0、・・・”と変化していきます。
- 【+10】を押すたびに、LED表示部の2桁目が“0、1、2、・・・、9、0、・・・”と変化していきます。

- ④ 【PRINT】を押します。
全集計データ保存が実行され、完了すると「待人数表示」に戻ります。
USBメモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”ファイルが作成されます。

(注) ④の【PRINT】押下時に於いて以下の場合、発行機の表示部に“E5”が表示されます。

- ・ USBメモリの空き容量が不足している場合
- ・ USBメモリが挿入されていない場合
- ・ USBメモリが書き込み途中で抜けた場合



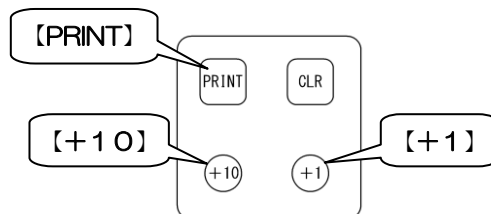
上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。

「待人数表示」に戻りますので、USBが挿入されているか確認し、手順①～④をやり直してください。

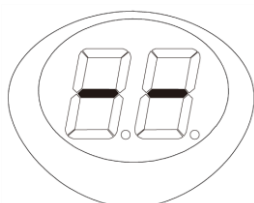
USBメモリの容量が不足している場合、パソコンにUSBメモリを接続してデータの移動、もしくは削除をおこない、空き容量の不足を解消した後、再度発行機にUSBメモリを接続して手順①～④をやり直してください。

⑤ 次に「プログラム更新」をおこないます。

発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“85”を点滅表示させます。
(設定モード“85”に設定されます。)



⑥ 【PRINT】を押します。プログラムのバックアップを開始し、終了後“—”が表示されます。



⑦ 発行機の電源スイッチを切ります。

5秒以上待った後、発行機の電源スイッチを入れます。

⑧ 発行機の表示部に“8. 5.”が点滅表示していることを確認します。



⑨ 【PRINT】を押します。プログラムの更新が開始され、更新完了後に“—”が表示されます。

(注) 【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“E. 9.”が点滅表示します>

- ・ USBメモリが挿入されていない場合
- ・ USBメモリが書き込み途中で機器から外された場合
- ・ USBメモリ内にプログラムが入っていない場合



ドット部点滅

上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。

“8. 5.”の点滅表示に戻りますので、手順①、及び手順⑤～⑨をやり直してください。

⑩ 発行機の電源スイッチを切ります。

⑪ 5 秒以上待った後、“CLR” キーを押しながら電源スイッチを入れます。
電源投入後、“三三” が表示されますので“三三” の表示が消えるまで“CLR” キーを
押したままにしてください。“三三” 表示が消えたら“CLR” キーを押すのをやめます。

表示部に待人数表示がされ、通常動作に戻ります。

(注) 必ず“CLR” キーを押しながら電源スイッチを入れてください。
電源投入時に“CLR” キーを押さない、又は“三三” 表示が消える前に、
“CLR” キーの押下をやめると、システム設定データ、集計データ、
日付・変更時刻設定が初期化されず、正常動作しない恐れがあります。
⑪にて正しい手順で電源投入をおこなわなかった場合は、手順⑩から
やり直してください。

⑫ 次に「全集計データ更新」をおこないます。

発行機の日付・時刻設定を現在の時刻に設定してください。

※ 既に発行機が現在の時刻で正しい場合、本作業をおこなう必要はありませんので、
手順⑬に進んでください。

発行機の日付・時刻設定は、発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10] キーで
表示部に“50”を点滅表示させ、【PRINT】を押下しておこないます。

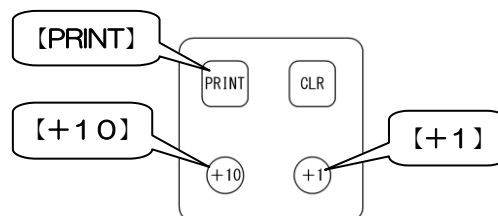
(詳細は、「日付・時刻を合わせる」の章を参照下さい)

(注) 全集計データ更新をおこなう際、全集計データを戻す発行機の日時は、全集計データ
保存した日時よりも、未来の日時でなければなりません。

(例) 全集計データ保存した日時	全集計データ更新する際の発行機の日時
2011 年 9 月 20 日 9 時 00 分 00 秒	→ 2011 年 9 月 20 日 9 時 00 分 00 秒 以降・・・ OK
2011 年 9 月 20 日 9 時 00 分 00 秒	→ 2011 年 9 月 20 日 8 時 59 分 59 秒 以前・・・ NG

⑬ 全集計データが保存されている USB メモリが発行機後部のコネクタに接続されているのを
確認します。

⑭ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10] キーで表示部に“87”を点滅表示させます。
(設定モード“87”に設定されます。)



- ⑮ 【PRINT】を押します。音声設定データの更新が開始され、更新後 LED 表示部が“- -”の表示になります。

〈表示〉
音声設定データ更新後



- ⑯ 発行機の電源スイッチを切ります。
※ 発行機の電源スイッチを切った後、USBメモリをはずします。
- ⑰ 5秒以上待った後、発行機の電源スイッチを入れます。

(注) ⑮の【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“E5”が表示されます。

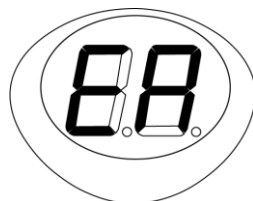
- ・ USBメモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”が無い場合
- ・ USBメモリが挿入されていない場合
- ・ USBメモリが書き込み途中で抜けた場合



上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。
「待人数表示」に戻りますので、USBが挿入されているか確認し、手順①、及び手順⑭～⑰をやり直してください。
USBメモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”が無い場合は①からやり直してください。

(注) ⑮の【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“EA”が表示されます。

- ・ 発行機の日時が、全集計データ保存した日時よりも未来の日時で無い場合



上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。
「待人数表示」に戻りますので、日時の設定が正しい事を確認し、手順①、及び手順⑭～⑰をやり直してください。

全集計データ保存

発行機（JC-1）内にある全ての集計データ（最大100日分の集計データ）をUSBメモリに保存します。この際、集計データと共に「日付変更時刻」設定も保存されます。

全集計データ保存は、発行機の基板交換等の際に集計データを移植する為に用意されている機能ですので、通常はおこなわないでください。

注）USBメモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

全集計データ保存、及び全集計データ更新をする前に必ず以下の内容をご確認ください。

- ・全集計データ保存をおこなう際は待人数は0、全ての窓口はクローズ状態でおこなってください。ただし、スキップしたものはそのまま構いません。
- ・日付変更時刻の設定を確認し、「全集計データ保存」と「全集計データ更新」の作業が日付変更時刻をまたいでおこなわない様にしてください。

正しい例 日付変更時刻設定が24:00（設定値：00）の場合

作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月27日 23:40 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

間違い例 日付変更時刻設定が24:00（設定値：00）の場合

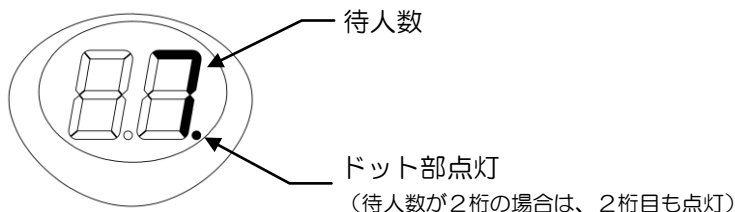
作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月28日 00:10 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

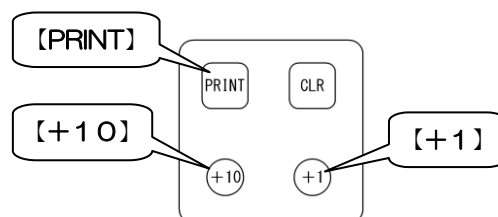
上記の“間違い例”の様に日付変更時刻設定の設定時刻をまたがって作業をおこなうと、10月27日の集計データが、10月28日の集計データとして本体に戻されてしまい、当日データが正常に更新されません。

「全集計データ保存」したデータを「全集計データ更新」で本体に戻す際、日付変更時刻をまたいでおこなわないでください。

- ① 発行機の電源スイッチを入れます。
- ② USBメモリを発行機後部のコネクタに接続します。
- ③ ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED表示部のドット部が点灯したことを確認します。



- ④ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“86”を点滅表示させます。（設定モード“86”に設定されます。）



⑤【PRINT】を押します。

全集計データ保存が実行され、完了すると「待人数表示」に戻ります。

USB メモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”ファイルが作成されます。

注3) ⑤の【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“E5”が表示されます。

- ・ USB メモリの空き容量が不足している場合
- ・ USB メモリが挿入されていない場合
- ・ USB メモリが書き込み途中で抜けた場合



上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。

「待人数表示」に戻りますので、USBが挿入されているか確認し、手順②からやり直してください。

全集計データ更新

全集計データ保存にて USB メモリに保存した集計データ（最大100日分の集計データ）を発行機（JC-1）に書込みます。

この際、全集計データ保存にて集計データと共に保存された「日付変更時刻」設定も書込みされます。

全集計データ更新は、発行機の基板交換等の際に集計データを移植する為に用意されている機能ですので、通常はおこなわないでください。

注) USB メモリは、必ず発行機に付属のものをご使用ください。

全集計データ保存、及び全集計データ更新をする前に必ず以下の内容をご確認ください。

- ・全集計データ保存をおこなう際は待人数は0、全ての窓口はクローズ状態でおこなってください。ただし、スキップしたものはそのまま構いません。
- ・日付変更時刻の設定を確認し、「全集計データ保存」と「全集計データ更新」の作業が日付変更時刻をまたいでおこなわない様にしてください。

正しい例 日付変更時刻設定が 24:00（設定値：00）の場合

作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月27日 23:40 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

間違い例 日付変更時刻設定が 24:00（設定値：00）の場合

作業内容 10月27日 23:30 「全集計データ保存」実施

10月28日 00:10 保存した data を使用し「全集計データ更新」実施

上記の“間違い例”の様に日付変更時刻設定の設定時刻をまたがって作業をおこなうと、10月27日の集計データが、10月28日の集計データとして本体に戻されてしまい、当日データが正常に更新されません。

「全集計データ保存」したデータを「全集計データ更新」で本体に戻す際、日付変更時刻をまたいでおこなわないでください。

- ① 発行機の電源スイッチを入れます。
- ② 発行機の日付・時刻設定を現在の時刻に設定してください。

発行機の日付・時刻設定は、発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10] キーで表示部に“50”を点滅表示させ、【PRINT】を押下しておこないます。

（詳細は、「日付・時刻を合わせる」の章を参照下さい）

注3) 全集計データ更新をおこなう際、全集計データを戻す発行機の日時は、全集計データ保存した日時よりも、未来の日時でなければなりません。

(例) 全集計データ保存した日時

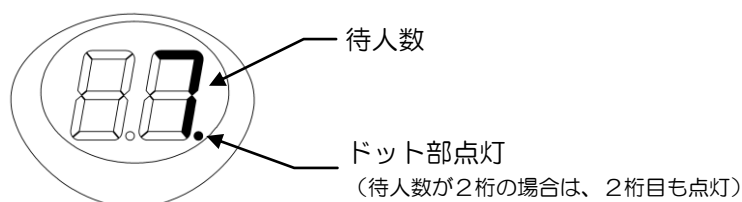
全集計データ更新する際の発行機の日時

2011年9月20日 9時00分00秒 → 2011年9月20日 9時00分00秒 以降・・・OK

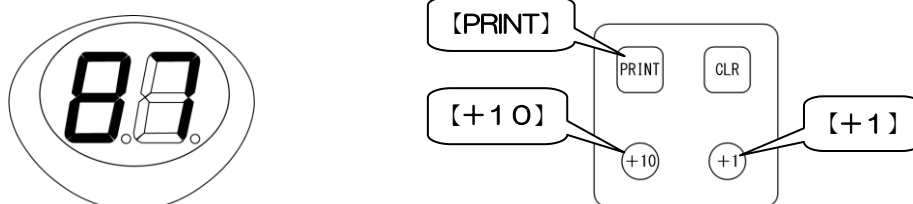
2011年9月20日 9時00分00秒 → 2011年9月20日 8時59分59秒 以前・・・NG

- ③ 全集計データが保存されている USB メモリを発行機後部のコネクタに接続します。

- ④ ブザーが“ピー・ピー”と鳴り、LED 表示部のドット部が点灯したことを確認します。



- ⑤ 発行機の上カバーを開け、操作部の [+1][+10]キーで表示部に“87”を点滅表示させます。
(設定モード“87”に設定されます。)



- ⑥ 【PRINT】を押します。音声設定データの更新が開始され、更新後 LED 表示部が“- -”の表示になります。

〈表示〉
音声設定データ更新後



- ⑦ 発行機の電源スイッチを切ります。
※ 発行機の電源を切った後、USB メモリをはずします。

- ⑧ 5秒以上待った後、発行機の電源スイッチを入れます。

注4) ⑥の【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“E5”が表示されます。

- ・ USB メモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”が無い場合
- ・ USB メモリが挿入されていない場合
- ・ USB メモリが書き込み途中で抜けた場合



上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。
「待人数表示」に戻りますので、USB が挿入されているか確認し、手順③からやり直してください。

USB メモリのルートディレクトリ（最上部）に“total_data.bin”が無い場合は「全集計データ保存」をおこなってからやり直してください。

注5) ⑥の【PRINT】押下時に於いて以下の場合は、発行機の表示部に“EA”が表示されます。

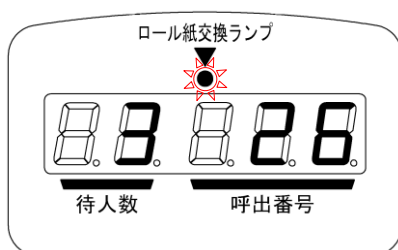
- ・ 発行機の日時が、全集計データ保存した日時よりも未来の日時で無い場合



上記エラーコードが表示された場合、“CLR”キーを押下します。「待人数表示」に戻りますので、日時の設定が正しい事を確認し、手順②からやり直してください。

ロール紙のセット方法

ロール紙が残り少なくなったら、操作モニタのロール紙交換ランプが点灯します。



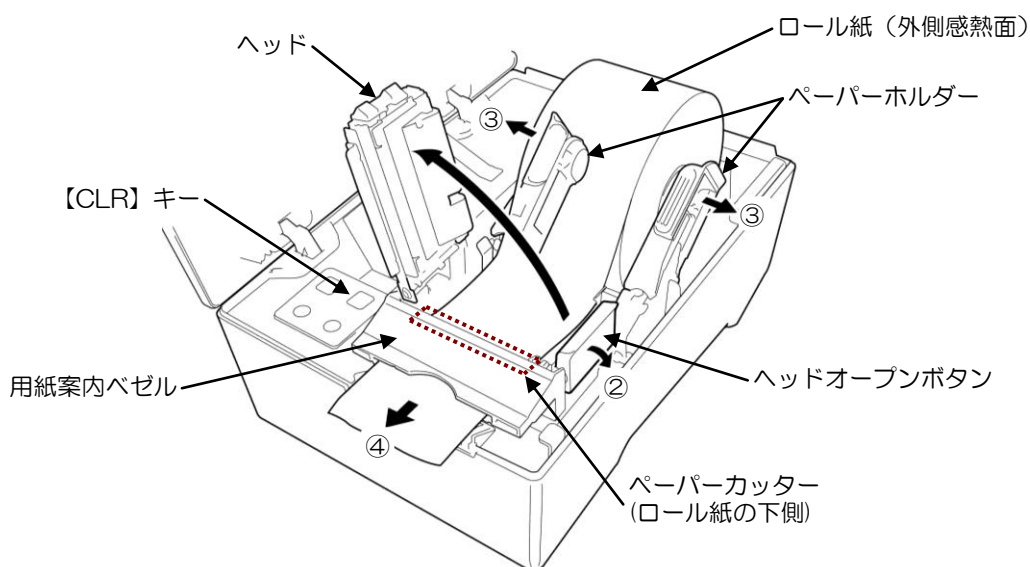
注) 用紙がなくなると、発行機に“E1”のメッセージが表示されますので、ロール紙を交換します。尚、印字途中で用紙がなくなり“E1”となった場合、その番号カードは有効となります。

通常通り呼出しをおこない、その番号カードを呼出した時点でスキップ処理をおこないます。(その番号は、スキップ処理したものとして集計に反映されます。)

- ① 発行機の上カバーを開きます。



- ② ヘッドオープンボタンを矢印側に押し込んでヘッドを開きます。



- ③ ペーパーホルダーを左右に広げてロール紙を交換します。
- ④ 用紙の先端を用紙案内ベゼルに通します。
注：用紙は案内ベゼルの中央にセットしてください。
- ⑤ ヘッドを閉じます。ヘッドを閉じると自動で用紙が送られカットします。
- ⑥ カットされた用紙を取除き、【CLR】キーを押します。
- ⑦ “テスト”と印字された用紙が出てきてカットされ、LED表示部に“A1”が表示されます。
- ⑧ カバーを閉じ、“テスト”と印字された用紙を取り除いてセット完了です。




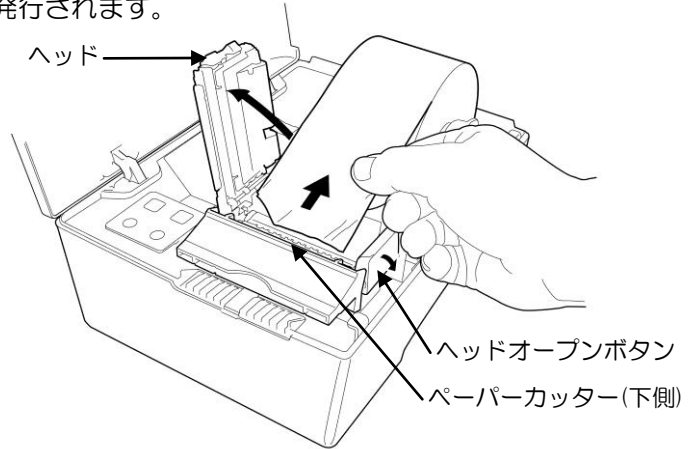
注意

- ・ペーパーカッターの刃先で手を切らないよう注意してください。
- ・印字中や印字直後は、ヘッド近傍が高温になっていることがあります。火傷の原因となりますので、絶対に手を触れないでください(ロール紙の交換は、ヘッドが冷えていることを確認してから行ってください)
- ・ヘッドを閉じたときは、確実にロックされていることを確認してください。

紙詰まりの対処

- ① 発行機の上カバーを開きます。
- ② ヘッドオープンボタンを押してヘッドを開け、詰まっている用紙を取り除きます。
※ 詰まった番号カードは、対処後再発行されます。

	注意
<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーカッターの刃先で手を切らないよう注意してください。 ・印字中や印字直後は、ヘッド近傍が高温になっていることがあります。火傷の原因となりますので、絶対に手を触れないでください(詰まっている用紙を取り除く際は、ヘッドが冷えていることを確認してから行ってください) ・ヘッドを閉じたときは、確実にロックされていることを確認してください。 	



- ③ ロール紙のセット方法と同様の手順でロール紙をセットし直し、上カバーを閉めます。

日常のお手入れ

発行機には、ロール紙の紙詰まりなどを検知するため、センサーを3ヶ所装備しています。センサーに紙粉や紙片の付着、ほこりなどが溜まるとセンサーが誤検出して以下に記す様な誤動作(注1)の原因となりますので、該当するセンサーを綿棒や刷毛、または柔らかい布で掃除してください。

※エアダスターなどをご使用になれば容易に掃除(紙粉や紙片、ほこりの除去)ができます。

(注1) 誤動作現象	確認箇所
ロール紙交換ランプが点灯することなく、“E1”(ロール紙エンド)エラーとなる	ニアエンドセンサー
“E2”(用紙ジャム) または “E3”(用紙セット異常)エラーが発生する	用紙検出センサー
“E2”(用紙ジャム) または “A1”(カード取出口用紙残留)エラーが解除できない カードを抜いても次のカードが発券されない	排出センサー

掃除をしても異常な状態が解消できない場合は、購入店またはサービスマンにご連絡ください。

用紙検出センサー (2箇所)

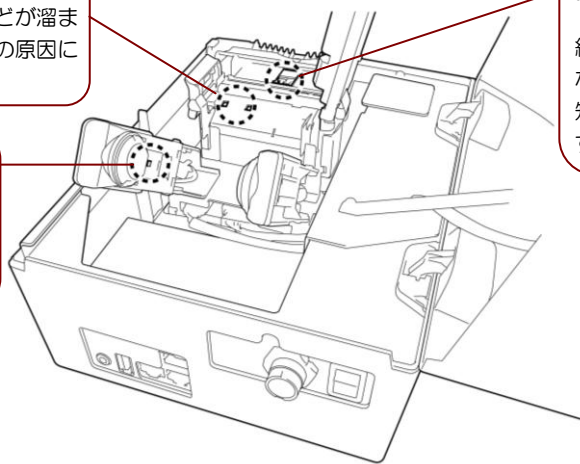
紙粉や紙片の付着、ほこりなどが溜まると用紙ジャムやセット異常の原因になります。

ニアエンドセンサー

紙粉や紙片の付着、ほこりなどが溜まるとロール紙交換ランプ点灯不良の原因になります。

排出センサー

(用紙案内ベゼル内)
紙粉や紙片の付着、ほこりなどが溜まると用紙残留検知ミス等の原因になります。



注意

カバーを拭くときは、中性洗剤を薄めたものに浸した布を固く絞ってから拭いてください。シンナーやベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。部品の変質、変色の原因になります。

状態表示一覧

発行機

発行機のLEDに表示されるコード内容です。

No.	コード	内容	対処方法
1		≡≡ システム起動中	・電源を入れた時に約 15 秒間表示されますので待人数が表示されるまでお待ちください。
2		A 1 カード取出口用紙残留	・カード取出口にある用紙を取り除いてください。 または排出センサーを掃除してください。
3		E 1 用紙エンド	・ロール紙を交換し、[CLR]キーを押してください。
4		E 2 用紙ジャム	・詰まっている用紙を取り除いて、[CLR]キーを押してください。または用紙検出センサーを掃除し、[CLR]キーを押してください。
5		E 3 用紙セット異常	・ロール紙を正しくセットし直し、[CLR]キーを押してください。または用紙検出センサーを掃除し、[CLR]キーを押してください。
6		E 4 印字ユニットとの通信エラー	・[CLR]キーを押し、電源を“切り”→“入り”してください。
7		E 5 USB通信異常	・[CLR]キーを押し、正しいデータが入っているUSBメモリを挿入し直してください。挿入後、USBメモリが認識されたブザー音が鳴ってから再度操作をおこなってください。
8		E 6 番号カードイメージ更新異常	・[CLR]キーを押し、正しい番号カードイメージが入ったUSBメモリを挿入して、再度更新作業をおこなってください。
9		E 7 LAN通信異常	・LANケーブルの接続を確認し、[CLR]キーを押してください。
10		E 8 カッター動作異常	・[CLR]キーを押してください。
11		E 9 プログラム更新異常	・[CLR]キーを押し、正しいプログラムの入ったUSBメモリを挿入して[PRINT]キーを押してください。
12		E A 全集計データ更新異常	・[CLR]キーを押し、発行機の日時を現在の時刻（全集計データ保存をおこなった日時以降）に設定し、再度全集計更新をおこなってください。
13		C 2 RAMチェック異常	・電源を“切り”→“入り”してください。

注) 各対処方法を実行しても状態が改善しない場合は、購入店またはサービスマンにご連絡ください。

操作モニタ

操作モニタのLEDに表示されるコード内容です。

No.	コード	内容	対処方法
1		≡≡ ≡≡≡ クローズ状態	・ [オープン/クローズ]キーを押すとオープン状態になります。
2		ロール紙交換ランプ(点灯) ロール紙残りわずか	・ ロール紙を交換して、発行機の[CLR]キーを押してください
3		待人数と“E”を交互表示 発行機エラー	・ 発行機に表示しているコードを確認し、対処方法をおこなった後、発行機の[CLR]キーを押してエラーを解除してください。
4		E 1 通信エラー	・ 電源を入れた時に数秒間表示されます。 ・ 電源を入れた時以外で表示された場合は、一旦電源を切り、LANケーブルの接続を確認してから、再度電源を入れてください。
5		E 2 発行機との接続待ち	・ 電源を入れた時に数秒間表示されますので、クローズ、または待人数が表示されるまで待ちます。
6		E 3 操作モニタ識別番号重複	・ アドレススイッチを設定し直します。 ・ 電源を“切り”→“入り”します。

注) 各対処方法を実行しても状態が改善しない場合は、購入店またはサービスマンにご連絡ください。

表示パネル

表示パネルのLEDに表示されるコード内容です。

No.	コード	内容	対処方法
1		≡≡≡ クローズ状態	・ 操作モニタの[オープン/クローズ]キーを押すとオープン状態になります。
2		E 1 通信エラー	・ 電源を入れた時に数秒間表示されます。 ・ 電源を入れた時以外で表示された場合は、一旦電源を切り、LANケーブルの接続を確認してから、再度電源を入れてください。
3		E 2 発行機との接続待ち	・ 電源を入れた時に数秒間表示されますので、クローズ、または待人数が表示されるまで待ちます。
4		E 3 表示パネル識別番号重複	・ アドレススイッチを設定し直します。 ・ 電源を“切り”→“入り”します。

注) 各対処方法を実行しても状態が改善しない場合は、購入店またはサービスマンにご連絡ください。

仕様

発行機 (JC-1)

No.	項目	仕様
1	外形寸法	本体 幅=180mm、奥行き=250mm、高さ=160mm
		電源ユニット 幅=105mm、奥行き=188mm、高さ=60mm
		スピーカー 幅=80mm、奥行き=80mm、高さ=70mm
2	重量	本体 約 3 kg (推奨のロール紙含む)
		電源ユニット 1.2kg
		スピーカー 0.312kg
3	電源	AC100V±10% 50/60Hz±2Hz
4	消費電力	本体 40W 以下
		スピーカー 12VA

操作モニタ (JM-1)

No.	項目	仕様
1	外形寸法	幅=80mm、奥行き=140mm、高さ=55mm
2	重量	約 240g (標準ケーブル含む)
3	電源	DC48V±10% (PoE による電源供給)
4	消費電力	4W

表示パネル (JP-1)

No.	項目	仕様
1	外形寸法	幅=390mm、奥行き=37mm、高さ=152mm (窓口表示板付き、ポールを除く)
2	重量	約 1.4 kg (標準ケーブル含む、パネルスタンドセットを除く)
3	電源	DC48V±10% (PoE による電源供給)
4	消費電力	14.4W

PoE ハブ (JH-1 : オプション)

No.	項目	仕様
1	外形寸法	幅=265mm、奥行き=184mm、高さ=44.5mm
2	重量	1.39kg
3	電源	AC100V 50/60Hz
4	消費電力	最大 62.5W

共通仕様

No.	項目	仕様
1	環境条件	温度 稼働時 5℃~40℃
		非稼働時 -15℃~60℃
		湿度 稼働時 20%~80%PH (結露なきこと)
		非稼働時 10%~90%PH (結露なきこと)

※ 仕様等記載事項は、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

付属品一覧

発行機 (JC-1)

No.	名称	数量	備考
1	電源ユニット	1	
2	電源コード	1	
3	アンプ内蔵スピーカー	1	ACアダプタ付属
4	USBメモリ	1	設定アプリケーションソフト、 標準設定データ、取扱説明書(本体、設定アプリ)
5	簡易マニュアル	1	
6	ロール紙	1	
7	保証書	1	

表示パネル (JP-1)

No.	名称	数量	備考
1	パネルスタンドセット	1	

PoEハブ (JH-1 : オプション)

No.	名称	数量	備考
1	電源コード	1	
2	19インチラックマウントキット	1	
3	ゴム足	4	
4	3P-2P変換コネクタ(7-入付)	1	
5	安全に関する説明書	1	
6	保証書	1	
7	LANケーブル	1	5m

消耗品一覧

No.	名称	品目番号	備考
1	ロール紙	M4-0513	

ピッコ株式会社

- 製造元 〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-24
TEL 044(833)6313 FAX 044(822)0519